

明治大学博物館

年報

2016年度



明治大学博物館

2016年度の 展示活動



企画展「再葬墓と甕棺墓」(1)



企画展「再葬墓と甕棺墓」(2)



企画展「再葬墓と甕棺墓」(3)



企画展「再葬墓と甕棺墓」(4)



企画展「再葬墓と甕棺墓」(5)



企画展「再葬墓と甕棺墓」(6)



企画展「再葬墓と甕棺墓」ポスター



新収蔵・収蔵品展 2016



譜代大名内藤家と戦—内藤家文書をつうじて—



備前焼の新たな価値創造



メディアとしてのカルタ
—時田昌瑞ことわざコレクションから—



江戸から東京へ—錦絵に見る日本近代の曙—



冒険家・植村直己 単独行 (2015年度～2016年度)

明治大学博物館

年 報

2016年度



明治大学博物館



目 次



口 絵	1
I 展示活動	5
1. 企画展「再葬墓と甕棺墓」(5)	
2. 明治大学 Online Museum の制作 (6)	
3. その他の展覧会 (7)	
II 教育普及活動	8
1. 市民講座 (8)	
2. 博物館実習 (9)	
3. 在学生対象事業 (10)	
4. アウトリーチ活動 (10)	
5. 社会連携・大学間連携 (10)	
6. ボランティア受け入れ (11)	
7. 情報発信 (11)	
8. 明治大学博物館友の会 (12)	
III 研究活動	13
1. 調査・研究活動 (13)	
2. 研究業績 (14)	
3. 刊行物 (15)	
4. 大久保忠和考古学振興基金 (15)	
IV 収蔵資料	15
V 統計・一覧・資料	23
1. 入館データ (23)	
2. 組織・構成 (26)	
3. 予算・決算 (28)	
4. 施設概要・見取り図 (30)	
5. 規程 (32)	
6. 2016 年度教育・研究に関する計画書 (39)	
7. 2016 年度単年度計画重点項目一覧 (41)	
8. 明治大学博物館のあゆみ (42)	

表紙写真 企画展「再葬墓と甕棺墓」展示資料 (千葉県岩名天神前遺跡)

I 展示活動

1 企画展「再葬墓と甕棺墓」

(1) 実施形態

主催 明治大学博物館
会期 10月22日(土)～12月18日(日) 58日間(会期中無休)
会場 明治大学博物館特別展示室 入場無料 入場者数 5,887名
企画構成 忽那敬三(考古部門学芸員)

(2) 趣旨

日本列島に米づくりが伝わった弥生時代(紀元前800年頃～紀元後250年頃)は、金属器の使用、「王」の出現など、社会に大きな変化が起こった時代であった。当時の墓には、人々の遺体だけではなく、副葬品や棺、墳丘などの構築物が残され、亡くなった人物の集団における立場や、所属した集団の習俗などを知ることができる。弥生時代には多様な墓がつくられたが、なかでも東日本の再葬墓と九州の甕棺墓は、際立った存在である。再葬墓は、遺体を骨化させた後に一部の骨を土器に入れて葬ったもので、甕棺墓は、専用の巨大な土器で埋葬した墓をさす。また、王墓級の甕棺墓などから出土する中国製の青銅鏡は、階層性の存在や年代を知る手がかりとなる。今回の展示では、当館が収蔵する関東の代表的な再葬墓資料と比較資料として収集した九州の甕棺墓と弥生時代並行期の中国鏡コレクションを一堂に展示し、明治大学が考古学専攻創設前後から取り組んできた弥生時代の墓制と鏡の研究のあゆみ、そして東西の墓制の違いとその特徴、鏡からみた弥生時代の年代について紹介することを目的とした。

なお、本企画展は当初予定されていた特別展が中止となったため、代替として企画・開催されたものである。正式に開催が決定したのが2016年7月であり、準備期間に限りがあったため館蔵品展とした。

(3) 展示構成

① 弥生時代の墓

弥生時代の墓制について、石、木、土器などさまざまな棺の種類と、それを納めた墳丘墓や周溝墓などの施設を概観し、再葬墓と甕棺墓の特殊性をパネルで解説した。なお、展示室入口正面には高さ3.2m、横幅2.7mの大型パネルを設置し、展示趣旨とともに代表的な出展資料やその調査写真を配し、冒頭で全体像のイメージを提示した。特に、桜馬場遺跡第1号甕棺はパネルの大きさを生かし、約1mの実物大として観覧者自身と比較ができるようにした。

② 明治大学の弥生墓制研究

杉原荘介氏による戦前・戦後の研究から始まり、現在まで続く再葬墓研究を中心に、九州の甕棺墓、北陸の台状墓など、文学部考古学専攻が手掛けてきた弥生墓制の研究を概説した。

③ 東日本の再葬墓

亡くなった人の遺体を地中に埋めるなどして骨のみの状態とし、再度埋葬する墓を再葬墓と呼ぶ。弥生時代になると、骨を土器の中に納めるタイプの再葬墓が主流となり、前期から中期まで、宮城県～愛知県にかけて約100ヶ所の遺跡が知られるなど再葬墓の概要と、明治大学が千葉県岩名天神前遺跡をはじめとして再葬墓研究を継続的に行ってきたことを紹介した。

展示では、代表的な調査事例として知られる茨城県殿内遺跡、群馬県岩櫃山遺跡、千葉県岩名天神前遺跡の概要を紹介するとともに、再葬墓出土土器44点を展覧した。このうち、殿内・岩名天神前両遺跡の土器全点が展示されたのは半世紀前の発掘調査以来初めてのことである。他館へ長期貸し出ししている資料も約40年ぶりの里帰りを果たし、一堂に資料を観察できる貴重な機会となった。出展に際し、破損していた資料の修復や集合写真の撮影が実施され、資料の整理保存や外部への貸し出しが可能な写真資料の充実をはかることができた点は、展示による成果のひとつであり、大きな意義がある。また、土器だけでなく再葬墓では数少ない玉類などの副葬品や、出土人骨についてもコーナーを設けて紹介した。さらに、岩名天神前遺跡第2号墓壙の実物大模型を制作し、遺構の大きさが実感できるよう配慮した。模型や今回撮影した土器の写真については、すでに外部団体から借用や使用の依頼が来ており、活用が図られている。

④ 甕棺墓とは何か

土器を棺に使用する墓のうち、北部九州に多い特製の大型専用棺を用いる甕棺墓について、分布の特徴と時期的変遷、また大量の副葬品をもつ上位階層の被葬者が存在するという特徴を概説した。加えて、出展した佐賀県桜馬場遺跡の甕棺は、明治大学が甕棺墓の調査に赴いた際に出土したもので、杉原荘介氏が弥生墓制を列島の視点で考えていたことがわかる。

甕棺は桜馬場遺跡の調査時に出土した3点と伝熊本県出土の寄贈資料1点の計4点を展示した。桜馬場遺跡第1号甕棺は旧考古学陳列館に常設展示されていたが、近年は出展する機会が少なかった。主要な甕棺4点が同時に展示されたのは、陳列館時代を含めて初めてのことである。桜馬場遺跡第2号甕棺下甕は、今回の展示に合わせて修復を行った。また、甕棺の副葬品として、桜馬場遺跡出土銅釧のレプリカと第2号甕棺内出土のガラス管玉、参考資料として巴形銅器のレプリカを展示し、再葬墓よりも豪華な副葬品のあり方を紹介した。

⑤ 弥生時代並行期の中国鏡

中国製の青銅鏡は、権威の象徴として上位階層の弥生の墓や古墳に副葬品として好んで用いられた。弥生時代並行期の鏡は、紀元前8世紀～紀元後3世紀頃のもの相当し、弥生時代中期・後期の北部九州には150面以上の中国鏡が集中する。特に王墓級の甕棺では複数の鏡が副葬される。中国鏡は漢代の鏡をはじめ製作年代の推定が可能なものがあり、階層性や大陸との交渉だけではなく、遺跡または弥生時代そのものの年代を考える上でも鍵となる。

展示では、当館が所蔵する中国鏡コレクションのうち、当該期の33点について時期ごとに斜めの壁状ボードに固定して提示する方法を採った。このことで、時期ごとの鏡種の特徴を理解できるとともに、間近で観察することを可能にした。さらに、古墳時代の鏡として著名な三角縁神獣鏡のコーナーを最後に設け、中国鏡の系譜上に連なる鏡であることを視覚的に理解できるよう工夫した。

(4) 展示資料の概要

出展数 館蔵資料152点（うち、市立市川考古博物館に長期貸し出し中で一時的に戻したものの7点）

(5) 関連イベント

ギャラリートーク 11月5日（土）参加者25名、12月3日（土）参加者26名

※出土した甕棺の破片や、復元制作した再葬墓土器のハンズオンもあわせて実施した。

2 明治大学 Online Museum の制作

「明治大学 Online Museum」は、博物館コレクションにもとづく各種のデジタルコンテンツをインターネットで公開することにより、従来の展示、生涯学習講座とは異なる形でコレクションの詳しい学術情報を市民・研究者等に提供することを目的としている。2016年度には、常設展示室（考古部門）バーチャル・ツアーのコンテンツを制作した。2017年度に部分的な公開を開始する。Online Museum では常設展バーチャル・ツアーのほかに、コレクション・データベース、教育コンテンツ等を駆使して多様な博物館コレクションの全体像と詳細な学術情報を発信する。

3 その他の展覧会

(1) 主催・共催展覧会

①新収蔵・収蔵資料展 2016

会 期 4月29日～6月8日 41日間

入場者数 3,206名

2015年度に博物館が新たに収集・受贈した資料及び関連する収蔵資料を紹介した。法令関係資料として撰銭令(元和2年・1616)、徳川家康の伝馬手形(慶長6年・1601)、明治新政府が掲げた徒党強訴を禁ずる高札、有名画廊における個展という販売方式による備前焼商品などを収集、また能代春慶塗(秋田県)、蒜山郷原漆器(岡山県)の寄贈を受けた。考古学関係では長野県大室168号墳出土の全国的にも希少な馬形土製品のレプリカを制作した。

②譜代大名内藤家と戦一内藤家文書をつうじて一

※延岡市内藤記念館と共催

会 期 6月18日～7月20日 33日間

入場者数 2,096名

2011～2015年にわたって行われた内藤家文書の研究促進事業の成果を報告する展示会。本展示では、武士としての譜代大名内藤家に焦点をあてた。近世初期の戦、幕末期の長州戦争など、内藤家伝来の武具に関する古文書などを取り上げ、近世の始まりと終わりで武家をとりにくく環境が大きく変化する事、その中で戦闘者として内藤家がどのような役割を求められ、果たしたのかを内藤家文書をつうじて描きだした。

③備前焼の新たな価値創造

会 期 7月28日～8月28日 25日間

入場者数 1,247名

ざっくりとした土味を特徴とし、桃山時代の茶人に愛された備前焼は、5人の人間国宝を輩出するなどすぐれて日本的なやきものとしてそのブランドを確立している。製品のほとんどが手成形・薪窯焼成によるという伝統技法を受け継ぐ産地で、美術的付加価値の高い茶華道具を中心に商品を市場に送り出してきた。備前焼の伝統技法はいかにして継承されてきたのか、また、されるのか、動向を紹介した。

④メディアとしてのカルタ

—一時田昌瑞ことわざコレクションから—

会 期 7月28日～8月28日 25日間

入場者数 1,247名

江戸後期にはことわざとその図像表現を対にした刷り物が出回っており、字札と絵札を交互に配置した一枚刷りのカルタはその変形と見ることができる。そして、カルタは一枚一枚のカードという形態を採り、字句を読みつつ図像を眺めて楽しませるといった表現形式として発展していった。近代以降、その題材は和歌・

俳句、歴史、民話、時事情報、スポーツなど多岐にわたり、カルタの形態が一つの情報メディアとして受容されてきた様相を辿る。

⑤江戸から東京へ—錦絵に見る日本近代の曙

会 期 9月3日～10月6日 44日間

入場者数 2,871名

明治大学博物館には約850点の錦絵が収蔵されており、特色あるコレクションとしてその一画を占めている。その中には、テレビ放映や教科書、副教材に掲載されるものも数多くある。錦絵は美術の観点から評価される一方、特に江戸後期から明治期にかけては時事情報を伝達するニュース媒体としての機能をもっていた。今回の展示では、幕末維新期における西洋式の導入や産業経済の近代化を題材とする錦絵を展示した。

⑥新収蔵資料展 20世紀前期の陶磁資料群

鍋島焼の近代／柿右衛門様式の復興／その他

会 期 3月1日～4月9日 40日間

入場者数 1,952名

比較的近年のものながら将来美術史上に貴重な遺産となり得る、まとまった数の陶磁器関係資料を展示。乳白色の磁胎に赤・緑の上絵を特徴とする柿右衛門様式は、17世紀後半における輸出仕様のデザインだった。第2次大戦後、第12、13代酒井田柿右衛門によってその技法は復興されるが、受贈した資料の中には12代作とされる染錦手も多く含まれ、柿右衛門様式と肌合いを比較することができた。

(2) 学内団体・外部団体による展覧会

①冒険家・植村直己 単独行

公益財団法人植村記念財団

明治大学体育会山岳部 主催

会 期 2016年3月26日～4月24日 30日間

入場者数 3,003名

エベレスト日本人初登頂、マッキンリー(現デナリ)に登頂し世界初の五大陸最高峰登頂達成、北極圏1万2000キロ、北極点単独到達など山岳部OB植村直己による単独の冒険行を紹介した。

②震災遺産展 我暦→ガレキ→我歴

ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会 主催

会 期 1月8日～2月5日 29日間

入場者数 4,260名

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、2011年3月の東日本大震災で福島県に起きたこと、すなわち「ふくしまの経験」を明らかにし、歴史的資料として震災が産み出したモノやバショを「震災遺産」と呼んで調査・保全に取り組み、歴史として共有して未来に伝えることを目指している。多様な局面を示す震災遺産の展示により、震災のカタチについて地域を越えて共有する機会とした。

(3) コレクション展

①商品部門

ア 山陰の民窯と民藝運動

期間 2016年1月26日～5月12日 108日間
 民間の需要に応えた小さな窯場が広範囲に分布する山陰地方の陶器について民藝運動の関わりで紹介。

イ 北海道の工芸

期間 5月13日～9月9日 113日間
 先住民文化への理解の問題と近代以降に新たに始まった工芸に対する評価について考察した。

ウ 郷土玩具と“わたし”

期間 9月9日～2017年3月7日 167日間
 「郷土玩具」に関する概念規定をテーマとする見学者との相互コミュニケーションを試みた実験的な展示。

エ 日用食器としての施釉陶器

期間 2017年3月8日～7月17日 132日間
 施釉陶器が日用食器として使用されるようになった経緯を磁器との関係にも留意しつつ紹介。

②刑事部門

ア 長崎踏絵借用道中—臼杵藩の宗門改め

期間 2015年12月22日～2016年4月24日
 128日間

臼杵藩が長崎奉行所で踏絵を借用した際に取り交わした借用証文や道中の先触れなどを紹介した。

イ お殿様の結婚事情

—内藤家文書にみる婚姻関係史料—

期間 5月11日～9月25日 138日間
 内藤家文書の内から婚姻関係文書5点を展出し、華やかな「江戸時代のお殿様の結婚式」のようすや、その裏で働く人々について紹介した。

③考古部門

ア 明大コレクション33：和鏡 日本人好みの意匠

期間 2016年2月10日～5月9日 90日間
 江戸期の和鏡について、変遷の概要を示すとともに日本独特の画題として好まれた吉祥文をもつ資料を中心に紹介した。

イ 明大コレクション1 中国鏡

期間 5月12日～8月19日 93日間
 戦国代から隋唐代までの中国鏡40面を展示。鏡の形状や文様の変遷を紹介。

ウ 明大コレクション34：ネアンデルタールの子どもの埋葬—シリア・デデリエ遺跡—

期間 8月20日～9月28日 40日間
 世界的にも希少な子どものネアンデルタール人の全身骨格について、復元全身骨と出土状況の模型で紹介。

エ 明大コレクション35：前場幸治コレクション④

飛鳥時代の瓦④

期間 11月12日～2017年1月31日 68日間
 藤原京や神奈川県千代廃寺など藤原宮期の瓦を展示。文様の共通性から造営主体同士のつながりを読み解く。

II 教育普及活動

1 市民講座

(1) リバティアカデミー—博物館入門講座

①使って楽しむやきもの講座2

日時	4月26日～6月7日 火曜日		
定員	15:00～16:30〈全4回〉 定員20名		
会場	博物館教室		
講師	外山 徹(学芸員・商品部門担当)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	14名
《趣旨》	「古美術」とはまた違う、現代の商品に込められた「ヒト」「モノ」「コト」についての価値を紹介。		
①	原材料から辿る陶磁史		
②	創業400年—有田焼の成立		
③	絵を描くという表現		
④	陶芸作家による産地ルネッサンス		

②弥生時代の青銅器をさぐる

日時	6月30日～7月21日 木曜日		
定員	13:00～14:30〈全4回〉 定員30名		
会場	博物館教室		
講師	忽那敬三(学芸員・考古部門担当)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	30名
《趣旨》	弥生時代青銅器の実物を観察しながら、その変遷や性格について考える		
①	美しい黄金色の輝き—弥生時代の青銅器の種類と年代		
②	戦いの道具からまつりの道具へ—武器形青銅器		
③	弥生人を魅了した音色と文様—銅鐸		
④	手のひらの中に表現された宇宙—鏡		

③今日から始める古文書講座

日時	10月25日～1月25日 水曜日		
定員	13:00～14:30〈全4回〉 定員18名		
会場	博物館教室		
講師	日比佳代子(学芸員・刑事部門担当)		

受講料	¥5,000	受講登録者数	18名
《趣旨》 古文書を初めて勉強する人、漢字で記述された日常の記録を読みたい人に向けた超初級古文書講座。			
①江戸時代の古文書を読む ②江戸時代の古文書を読む ③江戸時代の古文書を読む ④江戸時代の古文書を読む			

(2) リバティアカデミー博物館公開講座

①明治大学博物館考古学ゼミナール

ア 第58回 考古学の「年代」はいま

【企画協力】明治大学文学部考古学専攻

日時	6月3日～6月24日 金曜日		
定員	18:00～20:00〈全4回〉 定員100名		
講師	①工藤雄一郎（国立歴史民俗博物館）、②岩永省三（九州大学総合研究博物館）、③石川日出志（明治大学文学部）、④白石太郎（大阪府立近つ飛鳥博物館）		
受講料	¥5,000	受講登録者数	128名
《趣旨》 弥生時代開始年代に関する論争、放射性炭素の分析によって得られた縄文時代の年代、副葬品研究から導かれた古墳時代の年代など考古学の年代研究の現状を紹介。			
①縄文時代の年代はどこまで明らかになったか（工藤） ②青銅器から考える弥生開始年代（岩永） ③歴博の新弥生年代観をどうとらえるか（石川） ④古墳時代の暦年代をめぐって（白石）			

イ 第59回環境変化に人類はどう対応したか？

日時	10月21日～11月11日 金曜日		
定員	18:00～20:00〈全4回〉 定員100名		
講師	①島田和高（明治大学博物館学芸員）、②能城修一（森林総合研究所）、③辻誠一郎（東京大学大学院）、④杉山秀宏（群馬県埋蔵文化財調査事業団）		
受講料	¥5,000	受講登録者数	65名
《趣旨》 先史時代の気候・環境変動と人類集団の適応や文化・社会の変化との相互関係をめぐる最新の研究状況を旧石器時代から古墳時代にかけて紹介した。			
①中部高地黒曜石原産地における景観変遷と黒曜石獲得活動（島田） ②縄文時代の植物利用からみた資源開発（能城） ③縄文時代から弥生時代の環境変動と生業の変化（辻） ④火山災害のインパクトと古墳時代社会の変動（杉山）			

(3) リバティアカデミー生田教養・文化講座 (川崎市教育委員会連携事業)

①展示ケースの向こう側—明大博物館と考古学

日時	12月1日, 12月8日, 12月15日 木曜日		
定員	15:00～16:30〈全3回〉 定員50名		
会場	生田キャンパス		
講師	島田和高・忽那敬三（学芸員・考古部門担当）		
受講料	¥4,500他	受講登録者数	27名
《趣旨》 収蔵庫の膨大な石器や土器、金属製品の数々も交え特別展や常設展示のトピックと最新の研究を紹介。			
①気候変動に人類はどう適応したのか？（島） ②稲作の伝来と広がり（忽） ③古墳の出現と副葬品（忽）			

(4) 商学研究科と共催の公開特別講義

①商学部・商学研究科連携 伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.11

ア 工芸のサービスデザイン：アイデアの創造と編集

日時	11月25日(金) 10:40～12:10		
会場	リバティタワー1012教室		
講師	宇野昇平（工藝器と道具 SML・ディレクター）、多々納真（株）出西窯代表取締役）		
パネリスト	菊池一夫（商学部教授）、上原義子（商学部兼任講師・嘉悦大学経営経済学部専任講師）		
進行	外山 徹（商品部門学芸員）		
参加費	無料	受講者数	164名
商学研究科「商品学特論B」、商学部「商品学B」「商業経営論B」「市場調査論B」の拡大版として実施。手工芸の陶器の製造販売について、専門店と製造者のコラボレーションによる商品の企画から製造、PR、販売までの一連の動きをサービスデザインという観点から検討した。			

2 博物館実習

(1) 館務実習

①商品部門

参加者数 明治大学 16名

《実習内容》

館内施設・設備見学、ワークシート作成実習、収蔵資料整理、企画展監視員

②刑事部門

参加者数 明治大学 8名

《実習内容》

館内施設・設備見学、収蔵資史料の整理、企画展受付担当他

③考古部門

参加者 明治大学 15名、東京女子大学 1名、八洲学園大学 1名

《実習内容》

収蔵資料整理, 坂本万七写真研究所コレクション整理, 企画展パネル等製作

(2) 見学実習

- 8月19日 日本女子大学学芸員課程 12名
- 8月26日 日本女子大学学芸員課程 8名
- 9月8日 南山大学学芸員課程 29名

3 在学生対象事業

(1) 学部間共通総合講座

本学の博物館は、我が国における大学博物館の中でも上位の利用者数を数え、収蔵資料の充実や利用者サービスで高い評価を得ており、博物館の存在は明治大学の教育・研究活動を特色付けている。この講座では、大学における博物館の役割について知り、実際におこなわれている資料収集、調査・研究、展示活動のケース・スタディ、最先端の施設・設備の見学、収蔵資料の実物の取扱いなどを通じて博物館活動について理解を深めることを目的とする。また本来、博物館とは生涯学習社会にあって誰にも平等に保証された教育の機会である。近年では、学習サークルやボランティアの活動を通じたコミュニティ形成の場として、親子が共に学ぶ家庭教育の場としても活用の進展が期待されており、社会生活を営むにあたっての博物館の有効利用を啓発することをねらいとする。

	テーマ	担当者
①	近代博物館の成立と大学博物館	矢島國雄※
②	我が国における大学博物館の現状	外山 徹
③	博物館資料の形成1(旧石器・縄文資料)	忽那敬三
④	博物館資料の形成2(弥生・古墳資料)	忽那敬三
⑤	博物館資料の形成3(刑事関係資料)	日比佳代子
⑥	博物館資料の形成4(商品関係資料)	外山 徹
⑦	博物館の施設・設備	日比佳代子
⑧	展覧会の開催まで	外山 徹
⑨	博物館資料の取扱い1(古文書資料)	日比佳代子
⑩	博物館資料の取扱い2(考古資料)	忽那敬三
⑪	博物館資料の調査・研究(埴輪研究)	忽那敬三
⑫	調査・研究と資料の公開(古文書)	日比佳代子
⑬	博物館教育と生涯学習活動	外山 徹
⑭	総括 ふりかえりと意見交換	矢島國雄

受講登録者数 30 名

※文学部教授(学芸員養成課程)・博物館協議会委員長・本講座コーディネーター

(2) 国際日本学部「文化資源学」(春学期開講)

金曜3限

《授業の概要・目的》

日本文化の源流を過去にさかのぼって考察するため

の素材である文化財について、博物館が収蔵する資料の取り扱いを中心に学びます。我が国の歴史、伝統的な生活習俗のあり方、今日我々が教科書で学んでいる内容は、一体どのようなプロセスを経て明らかにされてきたのか?実習形式を取り入れ文化財の実物を通じた授業をおこないます。

	テーマ	担当
①	文化財とは何か? —文化財保護法とユネスコ世界遺産	外山
②	考古遺物と文化1—旧石器・縄文時代	島田
③	考古遺物と文化2—弥生・古墳時代	忽那
④	考古資料の展示と保管	島田
⑤	発掘された土器の洗浄と接合—考古資料の整理	忽那
⑥	遺跡の保存と活用1—旧石器・縄文時代	島田
⑦	遺跡の保存と活用2—弥生・古墳時代	忽那
⑧	古文書とは何か? —歴史叙述はどこから生まれるのか	日比
⑨	民俗資料とは何か?—庶民生活史を明らかにする	外山
⑩	古文書を読む—江戸時代の武蔵野の歴史をたどる	日比
⑪	古文書の整理—古文書はどのように後世に伝えられるのか	日比
⑫	金石文—地域に遺された歴史の痕跡	外山
⑬	古文書を見せる—古文書の展示で歴史を描く	日比
⑭	有形民俗資料(民具)—祖先の暮らしを知る	外山
⑮	ふりかえり(ディスカッションと授業内小テスト)	島田

中野キャンパス開講 受講登録者数 17 名

4 アウトリーチ活動

(1) 出張授業「弥生ムラのタイムカプセル登呂遺跡」

日 時: 5月10日(火)

明治大学附属明治中学校2年生

講 師: 忽那敬三(考古部門学芸員)

受講者数: 175 名

5 社会連携・大学間連携

(1) 地域連携

該当なし

(2) 大学間連携

南山大学人類学博物館との交流事業

①交換展示の実施

ア はにわのまつり—玉里舟塚古墳の埴輪の世界—

会期: 10月1日(土)~11月6日(日) 入場無料

会場: 南山大学人類学博物館常設展示室

イ 交錯する視線—文化人類学者西江雅之の歩き方—
会期：10月1日（土）～11月6日（日）入場無料
会場：明治大学博物館常設展示室

②一般社会人向けギャラリートーク

ア 名古屋 10月22日（土）15:15～16:15
テーマ よみがえる埴輪のまつり
—茨城県玉里舟塚古墳の埴輪群像—
講師 忽那敬三（明治大学博物館学芸員）
参加者 25名

イ 東京 10月8日（土）15:00～16:00
テーマ 西江雅之の『歩き方』講座
講師 鈴木智子（南山大学人類学博物館学芸員）
参加者 22名

③在学生向け特別講義

ア 明治大 11月4日（金）4・5限
テーマ 他者の展示は可能なのか？
講師 黒沢浩（南山大学人文学部教授）
受講生 21名
※学芸員養成課程「博物館実習」として実施

イ 南山大 10月26日（水）3限
テーマ 祖先の暮らしを知る
—地方古文書から見えてくるもの—
講師 外山徹（商品・刑事部門学芸員）
受講生 38名

6 ボランティア受け入れ

（1）常設展解説ボランティア

- ①参加者：友の会会員 40名
②研修日程及び内容

日程	研修種別	研修内容
5/18	博物館教育 商品部門1 商品部門2	展示解説の有用性に関する博物館教育理論 “伝統的工芸品”の成立 伝統的工芸品の文化的背景
5/25	商品部門3 商品部門4	移り変わる商品 伝統的工芸品の価値的創造
6/1	考古部門1 考古部門2	旧石器時代・縄文時代，他
6/15	考古部門3 考古部門4	弥生時代・古墳時代，他
6/22	刑事部門1 刑事部門2	日本の罪と罰，捜査と逮捕，他
6/29	刑事部門3 刑事部門4	取り調べ，刑罰，他
2/22	3部門	フォローアップ研修

（2）図書室ボランティア

- ①友の会会員：受付・入退出対応 32名

7 情報発信

（1）印刷物

- ①明治大学博物館広報誌『ミュージアム・アイズ』
A4判 16頁 各5,000部
67号特集 密着！博物館の仕事
68号特集 博物館資料で日本一周
②『明治大学博物館年報 2015年度』：80部
③その他
展覧会案内 2017年（A4三ツ折）：12,000部

（2）ホームページの公開

HPの主な構成：ニュース一覧／イベント一覧／ごあいさつ，明治大学博物館の理念・目標／展覧会案内—これまでの展覧会，2015年展覧会案内，2016年展覧会案内／来館案内—開館時間・休館日・アクセス等，館内の取材・撮影について，博物館蔵資料の利用／図書・古文書の利用—博物館図書室，古文書閲覧のご案内／団体見学について／教育プログラム／ミュージアムショップ M2／展示部門紹介—大学史展示室，商品部門，刑事部門，考古部門／博物館の重点事業（特定課題推進費の取り組み）／学芸スタッフ紹介／明治大学博物館友の会—入会のご案内，行事予定，展示解説ボランティアについて，図書室管理員の募集について，分科会のご案内／広報誌「ミュージアム・アイズ」／博物館年報／明治大学博物館アーカイブ

（3）報道機関等による取材

- ①新聞・雑誌掲載
明治大学博物館紹介 「読売新聞」 読売新聞東京本社
明治大学博物館紹介 『東京散策乗物ガイド』 教材研究所
明治大学博物館紹介 氣志團ファンクラブ会報誌『大漁旗』 ソニーミュージックアーティスツ
内藤家文書「延岡 宝財嶋玉町之図」紹介 『夕刊デイリー新聞』 2017 新年号 夕刊デイリー新聞社
明治大学博物館紹介 『東京観光バリアフリー情報ガイド』 東京都産業労働局
企画展「再葬墓と甕棺墓—弥生の墓の東西—」紹介 「読売新聞」 読売新聞東京本社
明治大学博物館紹介 『NHK 趣味どきっ！海・山・町を再発見！おとなの歩き旅』 NHK 出版

②テレビ放映

- 明治大学博物館 刑事部門紹介 「片岡愛之助の解明！歴史捜査2時間スペシャル～知られざる江戸の闇と闘った 徳川吉宗と大岡越前の真実を追え！～」 BS 日テレ
明治大学博物館紹介 「伝七捕物帳が楽しくなる 大江戸タイムトラベル」 NHK BSプレミアム
明治大学博物館 刑事部門紹介 「尾上松也の古地図

で謎解き！にっぽん探究」#68 鬼平「江戸捕物のすべて」 BS11

明治大学博物館 刑事部門紹介 「片岡愛之助の解明！歴史捜査～鬼平伝説徹底検証！長谷川平蔵の真実を追え！～」 BS日テレ

明治大学博物館 刑事部門紹介 「BOOKSTAND.TV」 BS12 トゥエルビ

③ラジオ放送・ウェブサイト・その他

明治大学博物館紹介 放送大学番組 DVD教材「博物館展示論(16)」第7回 大学博物館の展示とその役割 放送大学教育振興会

明治大学博物館 刑事部門紹介 「SPOT」(web サイト)

(4) ミュージアムショップ

①グッズ販売

- ・ミュージアムグッズの見本を展示
- ・受付窓口で刊行物等有償頒布

②他館の情報

- ・大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレット・チラシを配布

③来館者の声

- ・来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示

④友の会ブース

- ・博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

⑤博物館からのお知らせ

- ・博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

8 明治大学博物館友の会

①会員数 567名

②総会 2016年5月14日(土)

③講演会

ア 総会特別講演会「古墳時代の葬送儀礼と他界観」
5月14日(土)

立命館大学文学部名誉教授 和田晴吾

イ 第7回古代史講演会 6月4日(土)

「日本律令国家の地方支配と交通制度」

大阪大学大学院文学研究科准教授 市大樹

ウ 近世史講演会「大名屋敷と江戸周辺地域社会」

7月2日(土)

駒澤大学文学部教授 中野達哉

エ 講演会「日本考古学2016」9月10日(土)

「私の研究の原点—砂川遺跡の発掘と研究」

明治大学文学部教授 安蒜政雄

「古代の都の変遷と日本古代国家の構築」

明治大学大学院文学研究所特任教授 井上和人

オ 第8回古代史講演会「九州の甕棺と王墓」

11月5日(土)

福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課長
常松幹雄

カ アイヌ学講演会「アイヌ考古学の魅力」

12月24日(土)

旭川市博物館館長 瀬川拓郎

キ 会員発表会と講演会 3月4日(土)

第一部

『御縄打水帳』等の資料からみる新田開発」

前林芳雄会員

「葬送の習俗と黄泉の国・古墳」 細川恵司会員

「千木良村の歴史」 石井吉彦会員

第二部

「考古学と人類学との接点—カンボジア土器づくり
村の調査と弥生土器研究」

南山大学人文学部教授 黒澤浩

④見学会

ア 第20回会員案内による地元見学会「旧東海道・藤
沢宿をめぐる江の島を詣でる」4月6日(水)

案内 佐藤茂会員

現地案内 江の島・藤沢ガイドクラブ員

矢吹幸広他2名

イ 宿泊見学会「日本の黎明期を飛鳥の里に訪ねる」

7月14日(木)～15(金)

現地講師 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
学芸課指導学芸員 鶴見泰寿

現地講師 明日香村教育委員会文化財課調整員
西光慎治

ウ 宿泊見学会「信州の古代遺跡と産業遺産を訪ねて」

・事前学習会 10月5日(水)

・見学会 10月12日(水)～14日(金)

同行講師 明治大学博物館学芸員 忽那敬三

現地講師 明治大学研究・知財戦略機構, 黒耀石
研究センター客員研究員 会田進

エ 第21回会員案内による地元見学会「江東を歩く—

深川に江戸情緒を訪ねて—」11月30日(水)

案内 高橋幸子会員・戸田政徳会員

現地案内 江東区文化観光ガイドの会副会長・運
用・整備部長 鈴木俊朗 他7名

オ 見学会「江戸時代を探访する Part V 神田上水を
巡る」1月13日(金)

現地講師 文京区教育委員会文化財保護係主任主
事 池田悦夫

現地講師 東京都水道歴史館企画調査責任者
吉田雅之

⑤広報活動

・会報発行 年4回(春・夏・秋・冬)

・行事案内 友の会ホームページでの情報提供

・友の会掲示板の活用, 行事チラシの作成

⑥博物館への協力

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	27 名
展示解説員	火・水・木・金	43 名

⑦学習サークル（活動：原則として月 1 回）

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	31 名	外山学芸員・森朋久氏※ 1
平成内藤家文書研究会	13 名	伊能秀明氏※ 2
工芸の会	20 名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	23 名	島田学芸員
弥生文化研究会	28 名	忽那学芸員
古文書の基礎を学ぶ会	33 名	日比学芸員
東アジアの中の古代日本研究会	27 名	
前方後円墳研究会	30 名	忽那学芸員
「倭国から大和」を学ぶ会	25 名	
古代東北アジアと日本研究会	17 名	
記・紀を基に古代史を学ぶ会		活動休止中

※ 1 明治大学農学部兼任講師

※ 2 図書館総務事務長

Ⅲ 研究活動

1 調査・研究活動

(1) 商品部門

①「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会
第 1 回 5/6 第 2 回 9/23

②鳥取県産地調査

ア 概況調査（4 月 6・7 日）

因久山焼窯元，因州中井窯，牛ノ戸焼窯元，鳥取民藝美術館，鳥取県立博物館

イ 因州中井窯 坂本章氏（6 月 13 日）

窯の来歴，牛ノ戸焼・民藝運動との関係，商品の出荷についてのヒアリング

ウ 上神焼（6 月 14 日）

館蔵品の製造元の後継である山根芳子氏，中森伯雅に当時の様子をヒアリング

エ 牛ノ戸焼窯元（8 月 31 日）

原料土，製造技法等に関するヒアリング

オ 器屋うらの（9 月 1 日）

鳥取市内における地元産陶器の流通について

カ 鳥取県市場開拓局（9 月 1 日）

民芸振興官大江啓司氏に県の工芸品産業振興策についてヒアリング

ア～カとも調査員は外山徹

キ 研究調査員による調査（2017 年 3 月 22・23 日）

因久山焼窯元，因州中井窯，牛ノ戸焼窯元，鳥取民藝美術館

調査員 外山徹 上原義子（研究調査員）

③公開特別講義開催準備に関わる調査

ア 工芸器と道具 SML 宇野昇平氏

9 月 23 日 店舗経営のコンセプトについて 1，調査員：外山 徹

11 月 4 日 店舗経営のコンセプトについて 2，調査員：外山徹，菊池一夫（研究調査員），上原義子（同）

11 月 24 日 出西窯多々納真氏を交えた公開特別講義直前打ち合わせ，調査員：外山 徹

④ 2017 年度特別展に向けた調査

ア 9 月 14・15 日

弓浜がすり伝承館・工房ゆみはま・山根和紙資料館・あおや和紙工房にて概況調査

イ 11 月 13～15 日

鳥取県立図書館にて文献調査，鳥取民藝美術館にて出展交渉，因久山焼窯元・あおや和紙工房・長谷川憲人製紙にて資料・ヒアリング調査

ウ 11 月 30 日・12 月 1 日

工房ゆみはまにて資料調査・出展交渉，倉吉ふるさと工芸館視察・県立博物館にて出展交渉

エ 2017 年 3 月 13～16 日

工房ゆみはまにて資料整理，倉吉ふるさと工芸館にてヒアリング調査，鳥取県立博物館にて古文書調査・出展資料選定，大因州製紙協業組合にてヒアリング調査，因州和紙協同組合理事長に挨拶

(2) 刑事部門

①学生参加の古文書調査

対 象 宮沢村文書

参加者 教員 2 名, 学生のべ 49 名
11 回開催 於明治大学博物館

②内藤家関係聞き取り調査

話者 内藤恵子
聞き手 明治大学文学部教授 落合弘樹, 宮内庁書
陵部 内藤一成, 九州大学記録資料館 梶
島政司, 日本学術振興会特別研究員 内山
一幸, 日比佳代子
5 月 14 日, 10 月 1 日の 2 回 於明治大学博物館

③転封大名の新領における「藩」構築過程の研究

2014 年度に採択された JSPS 科研費 (研究代表者:
日比佳代子) による研究活動を実施した。内藤家文書
の調査を行い, 研究成果の一部を論文「内藤藩の大坂
屋敷」, コラム「転封こぼれ話 ～旅立つ人, 残る人,
涙の別れ～」として発表した。

(3) 考古部門

①気候寒冷化による先史狩猟採集社会の遊動戦略の変 化と人口動態

2014 年度に採択された科学研究費助成事業基盤研
究 (C) (研究代表者: 島田和高) の最終年度であっ
たが, 当該研究者の長期療養のため, 研究期間終了年
度を 1 年延長する措置をとった。

②ウイリアム・ガウランド写真資料 (寄託資料) 関連 資料の調査

科学研究費基盤研究 (B) 「ゴーランド・コレクシ
ョン総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史
の再構築」(研究期間: 2015 年 4 月～2019 年 3 月 研
究代表者: 一瀬和夫 京都橋大学教授) に忽那学芸員
が研究協力者として参加。2016 年 8 月 21 日～26 日
の日程で大英博物館収蔵のガウランドドキュメント資料
の撮影及び内容の調査を実施。6 月 18 日に京都キャ
ンパスプラザで行われたワークショップ「大英博物館
所蔵ゴーランド・コレクション調査プロジェクト (京
都編)」に参加, コメント発表を行う。

③展示方法の視察及び館蔵資料関連遺物の調査

戸田市立郷土博物館／山梨県立考古博物館／茨城県
立歴史館／石川県立歴史博物館／高槻市立今城塚古代
歴史館／平塚市美術館／早稲田大学會津八一記念館／
早稲田大学演劇博物館／東京都立江戸東京博物館／一
支国博物館／九州歴史資料館／国立科学博物館

④伝玉里舟塚古墳資料および三味塚古墳武具整理作業

茨城県教育委員会・茨城県立歴史館・明治大学文学
部考古学専攻と共同で報告作成作業 (2020 年刊行予
定) を実施。

2 研究業績

(1) 論文・著書

小野 昭・島田和高・橋詰 潤・吉田明弘 2016 「オー
ストリア・北チロル地方の中石器時代遺跡群と高山
景観の巡見調査」『資源環境と人類』6: 87-97

Shimada, K., Yoshida, A., Hashizume, J., Ono, A.
2017. Human responses to climate change on
obsidian source exploitation during the Upper
Paleolithic in the Central Highlands, central
Japan. *Quaternary International*, 442: 12-22.

島田和高・橋詰潤・小野昭 2017 「長野県中部高地に
おける先史時代人類誌 広原遺跡群第 1 次～第 3 次
調査報告書: 発掘・遺物写真編 (デジタル版)」『資
源環境と人類』7: 111-118

外山 徹 2016 近世中後期における高尾山信仰の地
域的展開『山岳修験』58, 日本山岳修験学会

外山 徹 2017 「変容する備前焼の「伝統」—工芸品
の「伝統」をどう捉えるか—」『明治大学博物館研
究報告』22: 23-32

中村大介・藁科哲男・忽那敬三 2017 明治大学博物
館所蔵の碧玉製管玉の産地同定『明治大学博物館
研究報告』22: 11-22

日比佳代子 2017 「内藤藩の大坂屋敷」『明治大学博
物館研究報告』22, 2017: 1-10

日比佳代子 2017 「高三瀧村仕起一件における願書内
容の齟齬と処理過程の史料学的分析」『柳川古文書
館三十周年記念誌』九州歴史資料館分館柳川古文書
館, 2017: 92-106

(2) 学会等発表

Shimada, K. Changes in obsidian use and human
responses to the LGM climate conditions in
central Japan. International Obsidian Conference,
June 6, 2016, Lipari, Italy. Oral presentation.

島田和高 「MIS2 の高山景観における黒曜石獲得のダ
イナミクス」2016 年度明治大学黒曜石研究センター
研究集会, 2017 年 3 月 25 日, 明治大学グローバル
フロント

外山 徹 「武州高尾山信仰圏形成の特質—護摩札の取
次経路に関する考察—」関東近世史研究会企画例会,
2016 年 11 月 5 日, 駒澤大学

(3) 講演等

忽那敬三 「古代の農村集落の生活」平成 28 年度明治
大学・天童市連携「てんどう笑顔塾」, 2016 年 7 月
23 日

忽那敬三 「埴輪と古墳祭祀」日本歴史文化講座「ヒス
カル」, 2016 年 11 月 28 日

忽那敬三 「お雇い外国人・ガウランドが見た飛鳥の古
墳—大英博物館に残された記録から—」世界に伝え

たい飛鳥・藤原の魅力 外から見た『飛鳥・藤原』
2017年3月5日

3 刊行物

(1) 『明治大学博物館研究報告』 第22号(1,100部)

《研究報告》

- ・個人的コンテキストの影響から見える博物館展示の教育手法に関わる諸課題—実験的インタラクティブ展示における見学者の意見分析を通して
海塚有里
- ・明治大学博物館所蔵の碧玉製管玉の産地同定
中村大介・藁科哲男・忽那敬三
- ・内藤藩の大坂屋敷—延享四年の転封を基点に—

日比佳代子

《研究ノート》

- ・変容する備前焼の「伝統」—工芸品の「伝統」をどう捉えるか—
外山 徹
- 《特別講義抄録》
- ・伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.11 工芸のサービスデザイン：アイデアの創造と編集
「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

4 大久保忠和考古学振興基金

基金の残額がわずかとなったため、奨励研究・刊行促進費とも募集を行っていない。2017年度に成果報告書の刊行を予定している。

IV 収 蔵 資 料

(1) 資料収集

①資料数 (部門別)

		刑事	考古	商品	合 計
受 入	購入	14	2	6	22
	受贈	0	0	84	84
合計		14	2	90	106
前年度総数		215,037	83,659	4,791	303,487
今年度総数		215,051	83,661	4,881	303,593
時田昌瑞ことわざコレクション					1,450
前場幸治瓦コレクション					10,725
総合計					315,768

《参考》年度別収蔵数 (部門別)

	刑事		考古		商品	
	購入	受贈	購入	受贈	購入	受贈
2012	14	17	7	6	10	3
2013	17	97	13	31	2	2
2014	16	193※	1	4,923	1	2
2015	8	1	2	0	20	13
2016	14	0	2	0	6	84

※他に未整理文書 19 箱分あり

②購入資料一覧

種別・分類	資料名
古文書	小田原藩士平井家文書
	大洲藩主遺骸棺確井関所通行二付
	人相書
	御請印帳 板倉重宗達書
絵画資料	米澤様三拾万石図
	筑後筑前豊後豊前四ヶ国之図
	肥後日向両国之図
	文部省版教育錦絵 稲の種類
	文部省版教育錦絵 脱穀
	農家耕作之図
	伊達郡養蚕家居村地区 八百屋お七物語絵巻
高札	キリシタン高札
考古遺物 レプリカ制作	玉里舟塚古墳矛形土製品
	岩名天神前遺跡第1号墓壙第1例土器(体験用)
商品資料	備前焼・練込 陶板(澁田寿昭 作)
	備前焼・花器PLEATS PLEATS PLEATS(同)
	牛ノ戸焼・染分けカップ, 緑流し6寸鉢, 三方掛
	尺皿, ひび焼4寸皿

③受贈資料

部門	資料名
商品	加須市郷土かるた(2点) 備前焼・緋襷 飾皿(鈴木黄一 作) 弓浜餅・がま口(ごとう餅店) 備前焼・ぐい呑み(柴岡信義作) 備前焼・ペア麦酒杯(一陽窯) 備前焼・麦酒杯(山本雄一工房) 備前焼・ぐい呑み(澁田寿昭作) 備前焼・麦酒杯(夢幻庵) 箱根寄木細工・写真立て 箱根寄木細工端材(5点一括) すすきみみずく 燕鎚起銅器・干支飾皿「酉」 有田焼・「匠の蔵」麦酒杯 有田焼・千鳥文マグカップ 有田焼・「匠の蔵」焼酎杯 瀬戸焼・「Re瀬ッ戸」飯茶碗 上神焼・辰砂釉湯呑 因久山焼・長石釉蟹鉄絵文盃 因久山焼・鉄藻釉掛分ぐい呑み 暗記用小学国史かるた 尾張七宝菖蒲飾り皿(安藤七宝店) SEGA SC-3000 コンピューターゲーム SEGA コンピューターゲーム ゲームソフト 20世紀の陶磁資料群(60点) 色絵花卉文輪花皿(柿右衛門焼合資会社)、染付牡丹文深皿(鍋島焼)、色絵花鳥文八寸皿(酒井田柿右衛門)、染付筋画茶器揃(平安京泉)、染付山水古器文蓋付茶碗、染付捻文煎茶器揃(利昌)、染錦間取文酒器揃(12代酒井田柿右衛門)、染付間取文酒器揃、志野釉湯呑、青釉洋酒器揃、灰釉梅花文盃揃(伊藤赤水)、染付帆波文深皿(鍋島焼)、染錦万年青文深皿(鍋島焼)、色絵花鳥丸文瓜形皿(12代酒井田柿右衛門)、裸婦像ノベルティ、踊子像ノベルティ、染付三松文盃(中)(精巧社もしくは光製磁所)、染付三松文盃(大)(精巧社もしくは光製磁所)、染付三松文盃(小)(精巧社もしくは光製磁所)、藁灰釉湯呑、赤絵花鳥文并鉢、赤絵花鳥文菓子鉢(真葛香山)、染付菊花文蒸茶器揃、染錦竜魚文香合、染付獅子牡丹文香合、雀蜂香合(酒井田柿右衛門)、色絵花卉文輪花鉢(柿右衛門焼合資会社)、染錦捻文小皿(12代酒井田柿右衛門)、色絵紅葉文并鉢、斑唐津ぐい呑(中里隆)、染錦柿文五寸皿(酒井田柿右衛門)、染錦六瓢文茶器揃(酒井田柿右衛門)、金唐草文外青汲出茶碗、染錦手花鳥文皿(酒井田柿右衛門)、鍋島色絵葡萄文深皿(鍋島焼)、青磁小鉢(真葛香山)、染錦竜鳳柘榴間取文八角鉢(12代酒井田柿右衛門)、赤絵魚菊鳥文刺身鉢(真葛香山)、染錦柿文飯茶碗(酒井田柿右衛門)、陶人形「狸々」(酒井田柿右衛門)、土人形「馬乗り大黒」、色絵柘榴文蒸碗(酒井田柿右衛門)、染付菊文睦揃、染付三松文飯茶碗(精巧社もしくは光製磁所)、色絵花卉文輪花皿(柿右衛門焼合資会社)、色絵牡丹丸紋茄子形小皿(酒井田柿右衛門)、色絵牡丹孔雀文小皿(酒井田柿右衛門)、染錦花卉捻り文皿(酒井田柿右衛門)、染付万年青文盃(精巧社もしくは光製磁所)、染付花卉文盃(精巧社もしくは光製磁所)、鍋島色絵葉桜檜垣文深皿(今泉今右衛門)、染付楼閣文角平鉢(精巧社もしくは光製磁所)、鉄絵山路文卷子形角平鉢(真葛香山)、染付笹唐花文水注、染付桐花文茶壺(精巧社もしくは光製磁所)、染付麒麟文茶壺(精巧社もしくは光製磁所)、染付菊花文茶壺(精巧社もしくは光製磁所)、陶人形「背負い唐子」(陶山)、染錦万年青文盃(精巧社もしくは光製磁所)、色絵柘榴文盃(酒井田柿右衛門)、染錦唐人文湯冷まし(酒井田柿右衛門)、染錦唐人文湯冷まし

④寄託資料

- ア 『刑罪大秘録』他 3点
受託期間 2012年4月1日～2017年3月31日
- イ 故里見庫男氏所蔵文書(3,373点)
受託期間 2016年4月1日～2019年3月31日(福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の旧領地域。地元の郷土史研究団体(いわき地域史学会)

- 及び大学院文学研究科日本史専攻生等による調査・整理作業がおこなわれた史料群)
- ウ 大英博物館所蔵ガウランド写真資料複写(458点)
受託期間 2015年4月1日～2018年3月31日
※3年ごとに更新

⑤資料修復

- ア 三味塚古墳横板板鋌留短甲蝶番金具 1件
- イ 大室第187号墳轡(保存処理) 1件

⑥教材製作

- ア 延岡城下家中屋敷割図 原寸大バナー 1点

(2) 資料整理

①商品部門

- ア 収蔵資料所在調査・再配架(陶磁器)
- イ 受贈資料の整理
受贈した20世紀前期の陶磁資料群の洗浄、台帳カード作成及び梱包、収蔵室への配架作業

②刑事部門

- ア 内藤家文書(近代史料、政道氏寄贈、近代寄贈)の整理
- イ 宮沢村文書の整理
- ウ マイクロフィルム等2次資料整理

③考古部門

- ア 坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備
- イ 茨城県舟塚古墳・三味塚古墳出土資料の整理
- ウ 収蔵資料の所在確認
- エ 矢島恭介資料の整理(点数・内容確認)

(3) 資料記録

①撮影

- ア 商品・考古部門
該当なし
- イ 刑事部門
錦絵撮影 19点

②デジタル化

- ア 商品・考古部門
該当なし
- イ 刑事部門
内藤家文書「関原合戦画卷」の「明治大学OnlineMuseum」用デジタルコンテンツの作成1件

(4) 資料利用

①資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事	考古	商品	合 計
一次資料 出品数	10点	695点	—	705点
レプリカ等 出品数	0点	28点	—	28点
撮 影	768点	28点	1点	797点
掲載等	270点	276点	1点	547点
合 計	126件 1048点	76件 1027点	1件 2点	—

《参考》年度別資料利用数推移

	出展数(レプリカ内数)	撮影	掲載
2012	1,185(20)	1,949	704
2013	701(8)	1,123	582
2014	862(12)	1,184	576
2015	595(6)	885	472
2016	733(28)	797	547

②収蔵資料閲覧

調 査 閲 覧 人 数	刑事部門		考古部門
	古文書	マイクロ	46件
	1,644点	308リール	
	131名		

《参考》年度別資料閲覧数推移

	刑事			考古
	古文書(点)	マイクロ(本)	人数	件数
2011	6,398	33	116	77
2012	3,858	137	182	66
2013	4,194	185	146	45
2014	3,913	269	254	35
2015	607	304	254	40
2016	1,644	308	131	46

③貸出先・展覧会・出展資料一覧

ア 刑事部門

(7) 東京都江戸東京博物館・京都府京都文化博物館・米沢市上杉博物館

「戦国時代展」

借用期間：2016年10月下旬～2017年6月下旬

甲州法度之次第 他 計2点

(イ) 延岡市 内藤記念館

「天下一のあゆみ—内藤家旧蔵の能面—」展

展示期間：2016年9月17日～10月10日

内藤家文書 1-28-22「祭礼並祈禱代参諸遷宮神事能取
噺」他 計7点

(ウ) 東京都江戸東京博物館・静岡県立美術館・彦根城博物館

「2017年NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」特別展
戦国！井伊直虎から直政へ」

展示期間：2017年7月4日～11月28日

黒川家旧蔵本 D-122 今川家式目 計1点

イ 考古部門

(7) 岩宿博物館

岩宿博物館2階常設展示室に展示

展示予定期間：2016年6月7日～10月23日

重要文化財 群馬県岩宿遺跡出土品 計39点

(イ) 港区教育委員会

港区立港郷土資料館常設展示

借用期間：2016年4月1日～2017年3月31日

東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計109点

(ウ) 茨城県立歴史館

特別展「三昧塚古墳とその時代」

会期：2016年10月8日～11月23日

茨城県勅使塚古墳出土重圏文鏡 他 計7点

(エ) 大田区立郷土博物館

特別展「土器から見た大田区の弥生時代」

会期：2017年1月7日～3月5日

神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 他 計2点

(オ) 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室（「岩宿時代のムラと社会」・「岩宿文化の地域性」のコーナーに展示）

借用期間：2016年7月1日～2017年6月30日

群馬県武井遺跡出土石器 他 計330点

(カ) 松戸市立博物館

平成28年度企画展「石斧と人—3万年のあゆみ」

会期：2016年9月17日～11月23日

群馬県岩宿遺跡出土刃部磨製石斧（レプリカ）他 計8点

(キ) 沖縄県立博物館・美術館

平成28年度 博物館特別展「港川人の時代とその後」

会期：2016年11月15日～2017年1月15日

重要文化財 群馬県岩宿遺跡出土品 他 計52点

(ク) 岩宿博物館

第62回企画展「ナイフ形石器—発達期の石器群を追う—」

会期：2016年10月1日～11月23日

東京都茂呂遺跡出土石器 計12点

(ケ) 岩手県立博物館

岩手県立博物館常設展示

借用期間：2017年4月1日～2018年3月31日

岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点

(コ) 市立市川考古博物館

市立市川考古博物館常設展示

借用期間：2017年4月1日～2018年3月31日

佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器 他 計80点

④資料利用一覧

ア 刑事部門

(7) 大垣市立図書館

大垣市史編纂過程で収集した古文書の複写物を利用者への閲覧に提供

『大垣市史 資料編 近世3 収集文書目録』を刊行、ホームページへ掲載

船附村文書 計5点

イ 考古部門

(7) みどり市

第21回、第22回、第23回岩宿文化賞受賞者へのトロフィーに使用する複製品を製作するため

群馬県岩宿遺跡出土刃部磨製石斧 計1点

(イ) 九州歴史資料館

日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤C)による調査研究(研究課題「九州島における石材産地と石刃技法の成立に関する研究」研究代表者:杉原敏之)

佐賀県平沢良遺跡出土石核 計25点

(ウ) 九州歴史資料館

日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤C)による調査研究(研究課題「九州島における石材産地と石刃技法の成立に関する研究」研究代表者:杉原敏之)

佐賀県平沢良遺跡出土石器 計30点

⑤掲載一覧

ア 刑事部門

『徳川幕府刑事図譜』切腹の図[掲載] 他『30分で納得 日本文化集中講座 武士道』 樞出版社

内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 延岡城の現在の状況と有馬時代の状況を比較するCGを延岡市公式ホームページや市民フォーラム等で利用

『徳川幕府刑事図譜』切腹の図 別冊「歴史人」『完全保存版 大江戸 武士の暮らし大全』 ベストセラーズ

公事方御定書 他「NHK高校講座 日本史」第22回『幕政改革』第23回『幕藩体制の危機』教育機関へ教育・学習コンテンツとして提供

『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 他 週刊『ビジュアル江戸三百藩』第35号 ハーパーコリンズ・ジャパン

『徳川幕府刑事図譜』火刑の図 『天下大変 江戸の災害と復興』江戸文化歴史検定協会

『徳川幕府刑事図譜』旧江戸伝馬町牢獄内 屋の図 『歴史 REAL 図解 大江戸八百八町』 洋泉社

『刑罪大秘録』笞打ち 他 別冊「歴史人」『完全保存版 大江戸 武士の暮らし大全』 ベストセラーズ

『徳川幕府刑事図譜』拷問の図(笞打) 他 特別企画展「立山×地獄展」パネル展示・図録 富山県[立山博物館]

往古うはなり打の図 「タイムスクープハンター 修羅場! 決戦の妻たち」(番組公開ライブラリーにて公開) NHK

出羽国村山郡山口村文書 乙-X-153 東都来状 渡辺尚志「総論」(『生産・流通・消費の近世史』) 勉誠出版

踏絵(レプリカ) 東京グローバル散歩編集委員会『東京グ

ローバル散歩—身近なところから世界を感じる東京歩き』 山川出版社

内藤家文書 内藤充真院繁子道中記「海陸戻り咲こと葉の手拍子」 柴桂子 NHKカルチャーラジオ 歴史再発見『江戸期に生きた女表現者たち』NHK出版

相模国津久井県千木良村絵図 他『江戸時代の千木良村を訪ねて 第2集』千木良歴史研究会

常設展示室風景 他 Mustiere Pierre『TOKYO INSOLITE & SECRET』 Jonglez

内藤家文書 内藤政道氏寄贈1-6-3 江戸御上屋敷絵図 他 特別展「加来飛霞のみた自然と歴史」タペストリー・ミニガイドブック 宮崎県総合博物館

『徳川幕府刑事図譜』賭博の図 柴田純『江戸のパスポート 旅の不安はどう解消されたか』(印刷媒体出版・電子出版) 吉川弘文館

公事方御定書 他「NHK高校講座 日本史 ①『幕政改革』②『幕藩体制の危機』」NHK Eテレ

『徳川幕府刑事図譜』斬罪仕置の図 他「にっぽん! 歴史鑑定」#61『高橋お伝は毒婦だったのか?』BS-TBS

『徳川幕府刑事図譜』日本橋晒の図 『大江戸捜査網 DVDコレクション』第65号 朝日新聞出版

伏見関門口豊後橋進撃之図(慶応4年正月)『新長崎市史普及版 わかる! 和華蘭』長崎市/長崎新聞社

『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 「尾上松也の古地図で謎解き! にっぽん探究」#35 大岡越前「名奉行の波乱万丈」日本BS放送

『徳川幕府刑事図譜』敲仕置の図 週刊『ビジュアル江戸三百藩』第40号 ハーパーコリンズ・ジャパン

大岡政談天一坊実記 他「謎解き! 江戸のススメ」#30『悪女の事件簿』(再放送) BS-TBS

『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 他「第7弾フットボールアワーの離島へ行こう! ~美しき流刑地・八丈島の謎~」フジテレビ

御定書百箇條 他 丹野顯『「火附盗賊改」の正体—幕府と盗賊の三百年戦争』集英社

『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(凶悪犯のはしご捕り)「片岡愛之助の解明! 歴史捜査2時間スペシャル~知られざる江戸の闇と闘った 徳川吉宗と大岡越前の真実を追え!~」BS日テレ

高札 切支丹禁制『日本史のライブラリー』東京法令出版

地方測量之図『小学校社会科テスト6年2学期』評価問題研究所

内藤家文書 増補5-12 五十三次ねむりの合の手 「夕刊デイリー新聞」夕刊デイリー新聞社

2007-707 大塚十二表之事 「伝七捕物帳が楽しくなる 大江戸タイムトラベル」NHK BSプレミアム

時世のぼり風『2017大学入試センター試験 過去問題集 日本史B』駿台文庫

鑑札 株仲間札『週刊 ビジュアル江戸三百藩』第43号 ハーパーコリンズ・ジャパン

- 関ヶ原合戦絵巻 他 「夕刊デイリー新聞」 夕刊デイリー新聞社
- 内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 『城大全』 ユーキャン
- 11-0-170 天保8年四ツ谷村宗門人別帳 他 館林市史編さん委員会『館林市史 通史編2 一近世館林の歴史一』館林市
- 城州於伏見戦争之図 他 日野原健司『戦争と浮世絵』 洋泉社
- 高札 太政官札 キリシタン禁制(慶応4年) 2016年度後期(高3・高卒生対象)『日本史写真資料集』河合塾
- 長祿江戸図 『みる・よむ・あるく東京の歴史』1巻 吉川弘文館
- 禁中並公家中諸法度 週刊『ビジュアル江戸三百藩』第48号 ハーパーコリンズ・ジャパン
- 獄門台 他 電子博覧会「Histoire du droit pénal au Japon depuis XVIIIe siècle jusqu'au début du XXe siècle (18世紀から20世紀初頭にかけての日本の刑法の歴史)」
- 内藤家文書 3-23-10-34-3-2 岩城平城改築ノ絵図 『夕刊いわき民報』所収「磐城平城」いわき民報社
- 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 延岡市役所建替に伴う発掘調査の成果を伝える説明看板に使用
- 邪蘇宗門御改帳 延宝五年 中山口村 『2016年度11月名大本番レベル模試 日本史』ナガセ
- 『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 『必殺仕事人 DVD コレクション』39号 デアゴスティーニ・ジャパン
- 内藤家文書 3-23-35-17 維新前後延岡藩士族屋敷図 他 「国絵図ニュース」37号 茨城大学教育部国絵図研究会
- 無宿長脇差取締の高札 高橋敏編著『アウトロー 近世遊侠列伝』敬文舎
- 地方測量之図 『日本歴史大地図(仮題)』ユーキャン
- 口上之覚 生類憐み令 「尾上松也の古地図で謎解き! につぼん探究」#49 なぜ名君・徳川綱吉に「犬公方」の汚名 BS11
- 『徳川幕府刑事図譜』白洲の図 他 『国立文楽劇場 錦秋文楽公演 公演解説書』日本芸術文化振興会
- 『徳川幕府刑事図譜』入墨の図 『週刊 ビジュアル江戸三百藩』58号 ハーパーコリンズ・ジャパン
- 『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(十手の使用法) 他 「片岡愛之助の解明! 歴史捜査」『町奉行 遠山の金さんの真実を追い!』アンコール放送 BS日テレ
- 今川仮名目録追加 他 『歴史 REAL 戦国時代大図鑑』洋泉社
- 『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(打込み・寄棒・鉤縄の使用法) 他 「解放新聞 東京版」部落解放同盟東京都連合会
- 『徳川幕府刑事図譜』遠島出船の図 『週刊 ビジュアル江戸三百藩』66号 ハーパーコリンズ・ジャパン
- 刑事部門常設展示室風景 インターネット動画サイト「GYAO!」内『ドォーモGT』GYAO
- 錦絵「鎮撫鹿兒嶋新聞 逆徒県庁を乗取る」高橋未来「鎮撫」する西郷像から見る西南戦争錦絵(『史苑』196号) 立教大学史学会
- 御成敗式目 歴史教育者協議会『日本の歴史 人物図鑑 ②鎌倉時代～江戸時代』岩崎書店
- 口上之覚 生類憐み令 他 『春夏秋冬ぴあ首都圏版』ぴあ
- 『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(凶悪犯のはしご捕り) 他 廣濟堂ベストムック『江戸の武士 仕事と暮らし大図鑑』廣濟堂出版
- 内藤家文書 江戸御上屋敷絵図 平成28年度文化財特別展「発掘された大名屋敷一殿様と勤番武士の暮らし」展示パネル・展示図録 千代田区教育委員会
- 今川仮名目録 他 『週刊ビジュアル戦国王』第31号 ハーパーコリンズ・ジャパン
- 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 「城山公園城跡景観等有識者会議」からの提言書に添付する資料として使用
- 今川仮名目録 平成29年度版『歴史資料集』明治図書出版
- 御成敗式目 『ポプラディア+ 人物事典』ポプラ社
- 帝国議會衆議院銘鑑 『2016 冬期講座 静岡県版』学書
- 口上之覚 生類憐み令 「尾上松也の古地図で謎解き! につぼん探究」BS11
- 今川仮名目録 イベント「まもなく放送! 大河ドラマ「おんな城主 直虎」ご当地トーク」での投影
- 今川仮名目録 『歴史 REAL 井伊直虎』洋泉社
- 美濃国安八郡浅草中村宗門御改帳(享保四年) 『最新日本史図表』第一学習社
- 『徳川幕府刑事図譜』捕縛の図(凶悪犯のはしご捕り) 「片岡愛之助の解明! 歴史捜査2時間スペシャル~知られざる江戸の闇と闘った 徳川吉宗と大岡越前の真実を追い!」(再放送) BS日テレ
- 甲州法度之次第 『週刊ビジュアル戦国王』36号 ジェー・ビー
- 内藤家文書 延岡 宝財嶋玉町之図 「夕刊デイリー新聞」2017新年号 夕刊デイリー新聞社
- 地方測量之図 2017年度版『社会4年デイリーサピックス440-08』日本入試センター
- 『牢内深秘録』新入りのしゃくり 他 「尾上松也の古地図で謎解き! につぼん探究」#68 鬼平「江戸捕物のすべて」BS11
- 今川仮名目録 他 『歴史人』3月号 ベストセラーズ
- 今川仮名目録 第23条 大河ドラマ「おんな城主 直虎」内「直虎紀行」#18 日本放送協会
- 生麦発殺之図 映像「大政奉還への道(仮題)」高知県立高知城歴史博物館
- 水戸藩小石川御屋敷御庭之図 「今昔! 古地図東京巡り~神楽坂編~」BS-TBS
- 地方測量之図 NHK デジタル教材「NHK for school」
- 今川仮名目録 他 「片岡愛之助の解明! 歴史捜査~今川義元はなぜ信長に負けたのか?! 桶狭間の戦いの真実を追い!」BS日テレ

今川仮名目録 他 「にっぽん! 歴史鑑定」 # 96 『今川義元は本当に愚将だったのか?』 BS-TBS
 『徳川幕府刑事図譜』 斬罪取片付の図 他 氏家幹人 歴史新書『増補版 大江戸残酷物語』(仮) 洋泉社
 『徳川幕府刑事図譜』 磔刑の図 「Des Indes lointaines aux scènes des collèges: les reflets des martyrs de la mission japonaise en Europe(XVIe-XVIIIe siècle)」 Aschendorff/Cerf
 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 他 延岡城跡石垣の補強工法の検討に関する報告書に掲載
 名和コレクション 鎖鎌(石見守直次作) ネットミュージアム兵庫文学館 企画展示「宮本武蔵 力と美」
 往古うはなり打の図 「タイムスクープハンター 修羅場! 決戦の妻たち」 ネットワーク配信
 『徳川幕府刑事図譜』 強盗配分の図 他 「にっぽん! 歴史鑑定」 # 97 『鬼平 長谷川平蔵の真実』 BS-TBS
 踏絵(レプリカ) 池上彰監修『国際理解につながる宗教のこと 3巻 歴史と宗教(アジア編)』 教育画劇
 今川仮名目録 表紙 「尾上松也の古地図で謎解き! にっぽん探究」#72 「桶狭間の戦い なぜ敗れた? 今川義元の実像」 BS11
 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 他 『延岡城内遺跡(第26・35次)発掘調査報告書』『延岡城跡(第27次)発掘調査概要報告書』
 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 「NHKファミリーヒストリー 松田丈志(競泳元日本代表)~故郷を背負い、つかんだメダル」 NHK
 『牢内深秘録』 新入りのしゃくり 他 「尾上松也の古地図で謎解き! にっぽん探究」#68 鬼平「江戸捕物のすべて」(再放送) BS11
 甲州法度之次第 「尾上松也の古地図で謎解き! にっぽん探究」#73 「川中島の戦い」 BS11
 大木文書 イ-15 明治七年目一月目六月民事訴訟金額及件数表 大庭裕介「太政官期の法典編纂における「西洋」「非西洋」」(『明治維新史研究』14号) 明治維新史学会
 地方測量之図 「doug pocket ver. 小学社会」 東京書籍
 内藤家文書 関原合戦画卷 栃木県壬生町教育委員会主催シンポジウム「壬生藩鳥居家の祖 “元忠”の関ヶ原」講演資料
 刑事部門常設展示室風景 他 ホームページ「歴史探検日誌」『徳川幕府刑事図譜』 安政年間勤王志士憂憤の図 他 『週刊 ビジュアル江戸三百藩』第82号 ハーパーコリンズ・ジャパン
 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 「NHKファミリーヒストリー 松田丈志(競泳元日本代表)~故郷を背負い、つかんだメダル」(再放送) NHK
 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 「NHKファミリーヒストリー 松田

丈志(競泳元日本代表)~故郷を背負い、つかんだメダル」(配信) NHK
 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 「NHKファミリーヒストリー 松田丈志(競泳元日本代表)~故郷を背負い、つかんだメダル」(国際放送) NHK
 板倉家文書 「亀山市史」ウェブ版 亀山市
 水戸藩小石川御屋敷御庭之図 「(仮称)小石川後楽園の保存活用計画」 東京都建設局
 『徳川幕府刑事図譜』 御様の図 別冊宝島編集部『日本刀の雑学100』 宝島社
 33-書冊-C-294 三河国賀茂郡篠原村 御水帳並寛永15年5月免状写共 新修豊田市史編さん委員会『新修豊田市史資料編 古代・中世』 愛知県豊田市
 奈良屋文書 50-書状-X-519 長崎糸之割符之事 他 西垣昌欣「糸割符再考」(『近世日本の国際関係と言説』) 溪水社
 イ 考古部門
 千葉県江原台遺跡山形土偶 『平成版おとなの歴史 謎多き古代史をめぐる』 笠倉出版社
 福岡県板付遺跡出土壺形土器 2016年度 中学講座『中1Challenge 英数国理社/8月号』ベネッセコーポレーション
 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 マナビス(高卒生対象)『日本史写真資料集』 河合塾
 京都府深草遺跡出土石包丁 『サマー練成 社会 中3』塾用問題集 学書
 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2016年度 メインレッスン社会 8月号 中1共通』(デジタル端末) ベネッセコーポレーション
 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『大学入試解答速報立命館大学2016年度入試問題「日本史」』(ホームページ配信) 河合塾
 群馬県岩宿遺跡発掘風景 常設展示のグラフィックパネルに掲載 群馬県立歴史博物館
 群馬県岩宿遺跡出土刃部磨製石斧 中学受験コースレギュラープラン 『エブリスタディアドバンスト5年生 ハイレベル・スタンダード共通 6月号社会』 Z会
 東京都茂呂遺跡出土ナイフ形石器 中学受験コースレギュラープラン 『エブリスタディアドバンスト5年生 ハイレベル・スタンダード共通 6月号社会』 Z会
 北海道置戸安住遺跡出土搔器 中学受験コースレギュラープラン 『エブリスタディアドバンスト5年生 ハイレベル・スタンダード共通 6月号社会』 Z会
 北海道置戸安住遺跡出土搔器 中学受験コース塾併用プラン 『エブリスタディアドバンスト答えと考え方5年生 ハイレベル・スタンダード共通 6月号社会』他 Z会
 茨城県三味塚古墳調査時撮影写真 他 特別展「三味塚古墳とその時代」(図録・展示パネル掲載) 茨城県立歴史館
 東京都茂呂遺跡出土ナイフ形石器 他 勅使河原彰『縄文時代史』 新泉社

- 東京都茂呂遺跡調査風景 『法人いたばし』 6・7月号(第408号) 板橋法人会
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2016年度 考える力・プラス中学受験講座 6年生 中学入試合格テキスト/1月号/共通』 ベネッセコーポレーション
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『大学入試シリーズ 新潟大学(人文・教育<文系>・法・経済・医・<看護>学部 2017-2019年版)』 教学社
- 群馬県岩宿遺跡出土土刃部磨製石斧 他 『ビジュアル図鑑 日本の歴史』 学研プラス
- 千葉県法皇塚古墳石室発掘風景 他 特別展「三味塚古墳とその時代」(展示パネル, 展示図録掲載) 茨城県立歴史館
- 埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『ウィニングウインター』 好学出版
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃 『基礎学力到達度テスト』 学研アソシエ
- 栃木県篠山貝塚出土縄文土器(前期) 『2016年度 立命館大学入試プレステージ日本史問題』 河合塾
- 群馬県岩宿遺跡A地点予備調査風景 他 平成28年度 博物館特別展「港川人の時代とその後」(展示パネル・図録ポスター・ちらし掲載) 沖縄県立博物館・美術館
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『基礎完ターゲット』 塾用問題集 学書
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『1・2年の入試総復習社会』 塾用問題集 学書
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『ウインター練成 実戦編 中3社会』 塾用問題集 学書
- 千葉県江原台遺跡山形土偶 譽田亜紀子『ときめく縄文図鑑』(印刷書籍版および電子書籍版) 山と溪谷社
- 愛知県五貫森貝塚出土打製石器 他 『II期ゼミ 中1社会』 塾用問題集 学書
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景 平成28年度特別展「文京むかしむかし黎明編ーうみ・やま・ひとの物語ー」(展示パネル, 展示図録掲載) 文京ふるさと歴史館
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景 広報誌『明治』第72号 明治大学経営企画部広報課
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『日本考古学協会リーフレット』(英語版) 日本考古学協会
- 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 他 2014年度 第1回全統マーク模試 地理歴史「日本史B」(河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」)に掲載:掲載期間:2017年4月より1年間 河合塾
- 神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他 2015年度『第1回全統マーク模試』地理歴史「日本史B」他(河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」)に掲載:掲載期間:2017年4月より1年間 河合塾
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景 他 大塚初重(聞き手・鶴原徹也)『掘った, 考えた』 中央公論新社
- 京都府深草遺跡出土壺形土器(畿内第II様式) 「平成28年度 標準学力調査+3学期版」中学1年生対象の学力調査 東京書籍
- 佐賀県平沢良遺跡出土剥片尖頭器 杉原敏之「九州と韓半島の旧石器文化」(特別展図録『港川人の時代とその後』中のコラム) 沖縄県立博物館・美術館
- 神奈川県夏島貝塚出土石鏃 『ポテンシャル日本史』 山平商会出版事業部
- 群馬県武井遺跡出土尖頭器 『3年間の総仕上げ ファイナルステージ』(印刷書籍版および電子書籍版) 文理
- 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 『8月ゼミ 小6社会』 塾用プリント ティエラコム
- 福島県南御山遺跡出土壺形土器 他 長尾修「青木山麓の歴史的環境ー南御山遺跡を中心としてー」『青木山讃歌 第九集』(『会津の民俗』第40号 抜刷) 青木山を守る会
- 福島県南御山遺跡出土壺形土器 他 長尾修「青木山麓の歴史的環境ー南御山遺跡を中心としてー」『会津の民俗 第40号』 会津民俗研究会
- ガラウンド撮影写真(野々瀬古墳群の1基の全景) 他 平成28年度企画展「はに坊と行く!えひめの古墳探訪」(図録, パネル展示, ポスター, チラシ, 歴博だより, HP掲載) 愛媛県歴史文化博物館
- 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 他 2016年度直前講習(高3・高校生対象)「愛大日本史テスト」他 河合塾
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃 他 2016年度全統マーク高2模試問題地理歴史「日本史B」 河合塾
- 群馬県岩宿遺跡出土ナイフ形石器 吉野教育図書編集部『歴史基本用語集』 創育
- 群馬県武井遺跡出土尖頭器 他 『ルーズリーフ参考書シリーズ 中1 5教科』 学研プラス
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017年度 中2 5教科パーフェクト事典/4/なし/なし』 ベネッセコーポレーション
- 栃木県篠山貝塚出土縄文土器 他 『III期ゼミ 小6社会理科合本』 塾用問題集 ティエラコム
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『III期ゼミ 中1社会』 塾用問題集 ティエラコム
- 栃木県篠山貝塚出土深鉢形土器 『図説 日本史通覧』 高等学校日本史資料集 帝国書院
- 群馬県岩宿遺跡出土岩宿I石器文化の石器 数点 他 「開運!なんでも鑑定団(出張鑑定 in みどり市)」 テレビ東京
- 愛知県五貫森貝塚出土磨製石器 『さなる式 歴史I』 塾用問題集 学書
- 京都府深草遺跡出土石包丁 『平成29年度 標準学力調査+1学期版 中学校第1学年』 学力調査教材 東京書籍
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃凸形 他 2016年度「第1回全統マーク模試問題」地理歴史B(日本史)他(河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」)に掲載:掲載期間:2017年4月より1年間 河合塾
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃凸形 他 2016年度「第1回全統マーク模試問題」地理歴史B(日本史)他(河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」)に掲載:掲載期間:2018年4月より1年間 河合塾
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃凸形 他 2016年度「第1回全統

マーク模試問題」地理歴史B(日本史)他(河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」に掲載:掲載期間:2019年4月より1年間) 河合塾

神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他 2015年度『第1回全統マーク模試』地理歴史「日本史B」他(河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」に掲載:掲載期間:2018年4月より1年間) 河合塾

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017年度 中1記述力UPドリル 社会VOL.1/4月号/共通タイプ/古代 古代までの日本(1)』ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017年度 中2記述力UPドリル 社会/4月号/共通タイプ/古代 古代までの日本(1)』ベネッセコーポレーション

千葉県岩名天神前遺跡調査風景 他 公開シンポジウム「東国弥生文化の謎を解き明かす～佐倉市岩名天神前遺跡と再葬墓の時代～」(映写及び記録集へ掲載) 佐倉市岩名天神前遺跡公開シンポジウム実行委員会事務局

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『ポイント整理日本史』東京法令出版

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2017年度 中学(中1生対象)歴史I』河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 河合塾 e-learning システム内の日本史映像コンテンツに掲載(掲載期間:2018年4月より1年間) 河合塾

神奈川県夏島貝塚出土深鉢形土器 譽田亜紀子『土偶のリアル』山川出版社

栃木県出流原遺跡出土管玉 中村大介・藁科哲男・忽那敬三「明治大学博物館の碧玉製玉類の産地同定」『明治大学博物館研究報告』明治大学博物館

島根県原山遺跡発掘風景(昭和23年4月5日撮影) ギャラリー展「山陰最古の弥生遺跡一原山遺跡一」(展示パネル,パンフレット掲載) 出雲弥生の森博物館

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017年度 定期テスト楽暗記アプリ 5月/共通/歴史』(デジタル教材)ベネッセコーポレーション

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 2017年度1学期(高2生対象)『高2日本史』他 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁 他 『2017年度 中1・中2社会 学びライブラリー』(デジタル教材)ベネッセコーポレーション

京都府深草遺跡出土石包丁 他 『2017年度 Challenge 社会』ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017年度 メインレッスン社会』(デジタル教材)ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017年度 定期テスト暗記BOOK』ベネッセコーポレーション

千葉県堀之内貝塚出土晩期鉢形土器(安行3d式) 譽田亜紀子『知られざる縄文ライフ』誠文堂新光社

京都府深草遺跡出土石包丁 『I期ゼミ 中1社会』塾用問題集 ティエラコム

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 2017年度基礎シリーズ(高卒生対象)『私大日本史テスト』河合塾

群馬県武井遺跡出土尖頭器 『学園基礎学力定着度試験』学研アソシエ

青森県金木遺跡の発掘調査風景 青森県史編さん考古部会『青森県史 資料編 考古1 旧石器・縄文草創期～中期』青森県

長野県大室197号墳出土鉄鍬実測図 他 平林大樹「信濃における後期・終末期古墳副葬矢の製作」『信濃』第69巻第2号 信濃史学会

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2017年度 入試によく出る基礎 社会/7月号/県別共通/レベル共通』ベネッセコーポレーション

群馬県岩櫃山遺跡全景 中村勉「シリーズ遺跡を学ぶ」118巻『三浦半島の洞穴遺跡』新泉社

埼玉県砂川遺跡A地点礫群写真 他 「考古学集刊」明治大学文学部考古学研究室

伝埼玉県将軍塚古墳出土有蓋長頸壺(前場幸治コレクション) 高久健二・佐藤康二『埼玉県立史跡の博物館紀要』第10号 埼玉県立さきたま史跡の博物館

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶(表) 他 『岩手県立博物館第68回企画展 遮光器土偶の世界』岩手県立博物館

群馬県岩宿遺跡出土ナイフ形石器 『平成29年度群馬県公立高等学校入学者選抜学力検査問題 社会』群馬県教育委員会

群馬県岩宿遺跡出土削器 『くもんの定期テスト 2時間でニャンとかできる中学歴史』くもん出版

佐賀県平沢良遺跡調査風景 他 杉原敏之「九州島における石材産地と石刃技法の成立に関する研究」(日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤C)による調査研究成果の報告書)

神奈川県大丸遺跡出土早期縄文土器 小林行雄「縄文文化の研究,通史・概説」『小林行雄考古学選集』第3巻 真陽社

ウ 商品部門

時田昌瑞ことわざコレクション 人こころ浮世乃たとへ 森洋子『ブリュエルの世界』新潮社

(5) 図書

①蔵書数

図書	全所蔵冊数	(冊)	89,248
	和	(冊)	88,047
	洋	(冊)	1,201
雑誌	全所蔵冊数	(タイトル)	2,954
	和	(タイトル)	2,902
	洋	(タイトル)	52

②購入・寄贈数

ア 図書受入数

総受入冊数		(冊)	2,274
図書受入冊数 *製本雑誌を含む	購入	和	(冊) 89
		洋	(冊) 0
	寄贈	和	(冊) 2,185
		洋	(冊) 0

イ 雑誌継続タイトル数

総受入種類数	(タイトル)	334
雑誌受入種類数	和	(タイトル) 331
	洋	(タイトル) 3

※2015年度統計より、図書館蔵書システムからの出力による数値を使用。

V 統計・一覧・資料

1 入館データ

(1) 入館状況

①開館日数・時間

ア 休館日 8月10日～16日/12月26日～1月7日

イ 開館時間 10時～17時

ウ 月別開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
博物館	30	31	30	31	24	30	31	30	25	23	28	31	344

エ 月別入館・利用者数

博物館	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常設展	3,657	4,080	3,716	3,546	3,095	3,085	4,366	4,184	2,811	3,771	3,365	3,655	43,331
特別展	2,558	2,444	1,396	1,557	972	1,532	2,831	2,589	1,806	3,445	815	1,464	23,409
図書室	312	571	554	572	270	466	756	603	500	333	195	184	5,316
教室等 利用者数	293	242	556	333	78	194	324	301	301	270	243	291	3,426
計	6,820	7,337	6,222	6,008	4,415	5,277	8,277	7,677	5,418	7,819	4,618	5,594	75,482

《参考》年度別入館・利用者数

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2004～16
常設展示室	52,240	49,604	46,059	42,333	42,632	43,331	543,151
特別展示室	21,619	20,874	21,057	16,937	18,755	23,409	227,591
図書室	5,531	5,973	5,621	5,476	5,321	5,316	66,521
教室等利用	1,119	1,637	2,254	3,203	3,334	3,426	20,911
計	80,509	78,088	74,991	67,949	70,042	75,482	858,174

②主催・共催展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
新収蔵・収蔵資料展 2016	4月29日～6月8日	41日間	3,206名
譜代大名内藤家と戦—内藤家文書をつうじて—	6月18日～7月20日	33日間	2,096名
備前焼の新たな価値創造/メディアとしてのカルタ	7月28日～8月28日 (8/10～16 休館)	25日間	1,247名
江戸から東京へ—錦絵に見る日本近代の曙	9月3日～10月16日	44日間	2,871名
再葬墓と甕棺墓—弥生の墓の東西—	10月22日～12月18日	58日間	5,887名
震災遺産展 我暦(が)→ガレキ(れ)→我歴(き)	2017年1月8日～2月5日	29日間	4,260名
新収蔵資料展 20世紀前期の陶磁資料群	2017年3月1日～4月9日	40日間	1,952名

(2) 団体見学

①月別集計一覧

ア 学校団体

学校見学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	4	6	3	3	4	4	7	11	9	1	4	2	58
人数	187	234	91	68	60	117	228	279	378	11	135	60	1,848

イ 一般団体

一般見学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	5	5	7	3	3	12	9	4	4	2	3	3	60
人数	106	169	166	40	27	294	199	132	95	61	55	43	1,387

《参考》団体見学数の推移

学校団体	2011	2012	2013	2014	2015	一般団体	2011	2012	2013	2014	2015
団体数	54	51	50	47	58	団体数	58	61	54	54	65
人数	1,888	1,257	1,352	1,310	1,852	人数	1,293	1,615	1,094	1,448	1,541

②団体一覧

4月

NHK文化センター さいたま教室, KG同窓会東京45年会, クラブツーリズム東京新発見旅 千代田区, 東村山明交會, 大船渡市立越喜来中学校, 京丹後市立久美浜中学校, かえつ有明中学校, 茨城県立水戸第二高等学校

5月

やちくりけん佐倉, 学生プロジェクト, 正則学園高等学校, あまし立甚目寺中学校, 杉並区立中瀬中学校, いきがい大学蕨学園9期校友会 史跡クラブ, 御殿場市立御殿場中学校, 相模原市文化財調査普及員考古班, 横浜市立上永谷中学校 2年生, 共愛学園高等学校, 流山史跡探訪友の会

6月

史跡と自然の会, 毎日新聞旅行, 神奈川県高等学校文化連盟社会科専門部, さいたま市図書館友の会, 長門住区センター, 水戸葵陵高等学校, 上野国立科学博物館ボランティア有志, 宝仙学園高等学校 女子部, 千葉モードビジネス専門学校 高等課程, 曹洞宗長野県第2宗務所第6教区

7月

太田市立太田高等学校, 明治大学校友会羽村地域支部, 駒澤大学 竹中智香ゼミ, 明治大学法学部 law in Japan program, 朝日生命保険相互会社, みどりヨコハマ人クラブ

8月

星槎国際高等学校, 海星高等学校, 和光大学附属梅根記念図書・情報館, 生き生き塾, 國學院大學地方史研究会, 地下鉄OB会(車両部), NHK文化センタービデオ教室

9月

目黒万葉集愛好会, 大学行政管理学会, 明治学院中学校, NPO法人新現役ネット, クラブツーリズム 東京新発見旅 千代田区, 駒澤大学 竹中智香ゼミ 新入生演習, 田道万葉集の会, YMC A東京日本語学校, 公益社団法人松戸青色申告会, 市友会, 石川県鹿西高等学校, 入間・比企地区人権教育推進協議会, 埼玉市シニア大学東浦和校

10月

長野県上田染谷丘高等学校, クラブツーリズム 東京新発見旅 千代田区, 沼津地区保護司会, 千葉大学教育学部附属中学校, さくら国際高等学校 東京校, 神奈川県立歴史博物館ボランティア金曜班グループ, 茨城県立那珂高等学校 PTA, 茨城県立水海道第一高等学校, 長野県松本美須々高等学校, 佐倉市岩名天神前遺跡公開シンポジウム実行委員会, 世田谷区退職者互助会けやき友の会, 長和町民大学キャンパスツアー, 明治大学付属中野中学校, 文華女子高等学校, 愛媛県人権教育協議会

11月

杉並区立高南中学校, 東柏会, 長野県丸子修学館高等学校, 水戸女子高等学校, 立教新座中学校, マヒドン大学, 稲毛会, 松戸市立小金中学校, 東京都立荒川工業高等学校, トキワ松学園中学校高等学校国際交流部, いきがい大学伊奈学園25期健康福祉科, 文京区立根津小学校6年生, 二松学舎大学博物館講座, 上尾法人会上尾支部, 埼玉県立小川高等学校1年5組

12月

府中市立府中第八中学校，東京医科歯科大学，高岡第一高等学校，静岡県立磐田西高等学校，江東区立深川第五中学校，千代田区立日比谷図書文化館，長崎県立西陵高等学校 2年生，共立日語学院，鹿児島県立武岡台高等学校，多摩カレッジ，長野県豊科高等学校，陸上幕僚監部法務官，ナルク市川

2017年1月

横浜国立大学インフラプログラム（留学生），明治大学東京都南部地区父母会，マナベル倶楽部 三都歴史ウォーク

2017年2月

株式会社 朝日カルチャーセンター・新宿，中野区立北中野中学校，専修大学附属高等学校，成城中学校，中央区立佃中学校，東松山市民俗芸能保存連絡協議会，鈴江会

2017年3月

共立女子中学高等学校，春秋の会，千葉県立八千代高等学校，歴史に親しむ会，船橋市コーディネーター西部ブロック

(3) 視察・研修受入

①受入団体数・参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	1	1	3	—	1	2	—	—	1	2	11
人数	—	—	1	2	24	—	2	22	—	—	13	6	70

②団体名一覧

神津島村立神津中学校職場体験（6月7～8日），東京都立大泉高等学校附属中学校職場体験（7月12～14日），日本女子大学見学実習（8月19日，26日），ソウル芸術大学（8月22日），東京都立桜修館中等教育学校職場体験（10月26～27日），東京都立白鷗高等学校附属中学校職場体験（11月8～10日），天童市教育委員会（11月12日），天童市市議会（2017年2月2日），青山学院資料センター・同所管青山学院常務理事（2017年3月27日），明治大学国際武器移転史研究所（2017年3月28日）

(4) 図書閲覧サービス

①図書開室時間 月～土曜日 10:00～16:30

②閲覧者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生													
大学院生	131	369	360	376	129	272	524	377	329	173	61	67	3,168
明大教職員	11	7	12	6	11	10	5	8	3	4	4	5	86
友の会	20	31	45	43	21	38	41	22	19	37	35	25	377
リパティアカデミー会員	12	8	5	20	5	6	8	4	8	1	4	1	82
聴講生	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	2	7
OB	33	39	26	33	20	23	30	11	10	15	21	22	283
他大学学生	48	54	55	44	55	74	109	119	90	59	27	27	761
一般	49	52	40	43	24	34	31	48	31	30	36	32	450
明大その他	8	11	10	5	4	8	8	14	10	14	7	3	102
合計	312	571	554	572	270	466	756	603	500	333	195	184	5,316
開室日数	26	23	26	26	18	22	26	24	20	19	23	26	279
1日平均（人）	12.0	24.8	21.3	22.0	15.0	21.2	29.1	25.1	25.0	17.5	8.5	7.1	19.1

2 組織・構成

(1) 博物館構成員

①館長・副館長

任期：2016.4.1～2018.3.31

役職	氏名	所属	専門
館長	村上一博	法学部教授	日本近代法史
副館長	李英美	商学部教授	基礎法学

②専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術・社会連携部長	菊池亮一		
博物館事務長	小澤芳明		
学芸員	外山徹	商品・刑事部門	博物館学／地域文化論
学芸員	島田和高	考古部門	旧石器時代
学芸員	日比佳代子	刑事部門	日本近世史
学芸員	忽那敬三	考古部門	弥生・古墳時代

③非常勤職員

	氏名	担当
短期嘱託職員	織田潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	川崎舞	庶務(図書)部門担当
短期嘱託職員	高野美佳	刑事部門担当
短期嘱託職員	海塚有理	商品部門担当
短期嘱託職員	海沼真澄	考古部門担当
短期嘱託職員	岡地智子	考古部門担当

(2) 博物館協議会

①協議会 任期 2015.4.1～2017.3.31

委員長	矢島國雄	文学部教授
副委員長	佐々木憲一	文学部教授
	山口政信	法学部教授
	高橋昭夫	商学部教授
	阿部芳郎	文学部教授
	落合弘樹	文学部教授
	野尻泰弘	文学部専任講師
	本多貴之	理工学部専任講師
	薩摩秀登	経営学部教授
	南後由和	情報コミュニケーション学部専任講師
	田部井茂	経営企画部長
	庄井正志	経営学部事務長

②資料評価分科会 任期 2015.6.25～2017.3.31

座長	高橋昭夫	商学部教授
	佐々木憲一	文学部教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	野尻泰弘	文学部専任講師

(3) 研究調査員

任期 2016.4.1～2017.3.31

菊池一夫	商学部教授(商業経営論)
福田康典	商学部教授(市場調査論)
上原義子	商学部兼任講師 嘉悦大学経営経済学部専任講師
小野昭	明治大学研究・知財戦略機構客員研究員
牛米努	税務大学校租税史料室 文学部兼任講師
山路直充	市立市川考古博物館 文学部兼任講師

(4) 作業部会

①博物館・大学院商学研究科・商学部連携

「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

座長	高橋昭夫	協議会委員・商学部教授(商品学)	◎
	菊池一夫	商学部教授(商業経営論)	
	福田康典	商学部教授(市場調査論)	
	上原義子	商学部兼任講師 嘉悦大学 経営経済学部専任講師	
	外山徹	博物館学芸員	

◎は博物館協議会委員

(5) 明治大学博物館友の会 2016 年度役員

相談役	村上一博	李英美	
顧問	大塚初重	倉田公裕	熊野正也
	杉原重夫		
会長	鈴木弘		
副会長	野口淳	平井孝雄	
理事	藤俊夫 (総務)	橋本秀夫 (行事)	村井孝行 (会計)
	青鹿良市 (広報)		
運営委員 (総務)	大島淑子	相澤博昭	宮城正
" (会計)	古沢芳枝		
" (行事)	松村祐安	本橋清美	桐生邦子
" (広報)	望月桂一郎		
" (図書室 管理員副 代表)	新井正子		
" (展示解 説員副代 表)	渡辺やす子		
図書室管 理員代表	木戸孝義		

展示解説 員代表	内 田 誠		
監 事	支 倉 紀代美	松 本 慶 三	
分科会	古文書を読む会		高 橋 幸 子
	平成内藤家文書研究会		粕 谷 宏 幸
	工芸の会		村 上 優 子
	旧石器・縄文文化研究会		長 野 陽 次
	弥生文化研究会		磯 辺 隆 信
	古文書の基礎を学ぶ会		石 井 吉 彦
	東アジアの中の古代日本研究会		山 本 廣 一
	前方後円墳研究会		磯 辺 隆 信
	「倭国から大和」を学ぶ会		村 井 孝 行
	古代東北アジアと日本研究会		勝 尾 實
記・紀を基に古代史を学ぶ会		岡 田 幸次郎	

(6) 各種会議開催日

①博物館協議会

6月23日, 2017年3月9日

②資料評価分科会

7月22日, 12月16日

③博物館・友の会連絡会議

5月20日, 9月16日, 11月18日, 2017年2月17日

3 予算・決算

(1) 2016 年度事業費予算・決算

予算

科目	目的		特定課題推進費					合計
	博物館費	基金事業費	特別展	大学博物館 交流事業	山陰地方 伝統工芸	I C T ミュ ージアム	—	
兼務職員人件費	906,000	0	0	0	0	0	—	906,000
福利費	15,000	0	0	0	0	0	—	15,000
修繕費	735,000	0	0	0	0	0	—	735,000
旅費交通費	1,081,000	10,000	336,000	224,000	530,000	0	—	2,171,000
業務委託費	738,000	0	720,000	0	18,000	1,440,000	—	2,916,000
保険料	240,000	0	96,000	0	0	0	—	336,000
準備品	0	0	0	0	0	0	—	0
その他の消耗品費	1,532,000	20,000	0	7,000	0	0	—	1,539,000
印刷製本費	1,618,000	0	1,056,000	116,000	0	0	—	2,790,000
郵便費	0	0	0	0	0	0	—	0
運搬費	96,000	0	3,959,000	384,000	0	0	—	4,439,000
広告費	81,000	0	96,000	0	0	0	—	177,000
支払手数料	77,000	10,000	0	39,000	29,000	0	—	145,000
賃借料	18,000	0	0	0	0	0	—	18,000
会合費	104,000	50,000	0	0	0	0	—	104,000
公租公課	34,000	0	0	0	0	0	—	34,000
管) 準備品	96,000	0	0	0	0	0	—	96,000
管) その他の消耗品費	0	0	0	0	0	0	—	0
教) 雑費	0	0	0	0	0	0	—	0
教育研究用機器備品費	4,896,000	0	0	0	0	0	—	4,896,000
図書費	327,000	0	0	0	0	0	—	327,000
合計	12,594,000	90,000	6,263,000	770,000	577,000	1,440,000	—	2,1644,000
前年度予算額	13,112,000							22,535,000
増・減 (▲)	▲ 518,000							▲ 891,000

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算振替は反映していない
 ※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

決算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費					合計
			特別展	大学博物館 交流事業	山陰地方 伝統工芸	ICTミュー ジウム	—	
兼務職員人件費	1,645,475	0	0	0	0	0	—	1,206,783
福利費	12,000	0	0	0	0	0	—	0
修繕費	243,888	0	0	0	0	0	—	742,430
旅費交通費	1,080,790	0	0	209,016	233,810	0	—	1,064,510
業務委託費	813,730	0	881,280	199,800	17,978	1,436,400	—	7,963,491
保険料	133,700	0	47,130	0	0	0	—	133,700
準備品	1,340,255	0	0	0	0	0	—	540,540
その他の消耗品費	1,977,266	0	198,795	6,068	0	0	—	1,686,174
印刷製本費	1,668,083	0	254,800	107,892	0	0	—	2,627,420
郵便費	0	0	0	0	0	0	—	690
運搬費	35,419	0	457,380	650,040	0	0	—	335,295
広告費	275,797	0	0	127,885	0	0	—	84,000
支払手数料	215,268	0	0	50,000	60,860	0	—	160,684
賃借料	0	0	0	0	0	0	—	15,184
会合費	74,626	0	0	0	0	0	—	77,404
公租公課	30,000	0	0	0	0	0	—	30,000
管) 準備品	0	0	0	0	0	0	—	0
管) その他の消耗品費	0	0	0	0	0	0	—	0
教) 雑費	0	0	0	0	0	0	—	0
教育研究用機器備品費	6,606,428	0	540,000	0	0	0	—	5,422,428
図書費	0	0	0	0	0	0	—	0
合計	16,152,725	0	2,379,385	1,350,701	312,648	1,436,400	—	21,631,859
前年度決算額	12,722,866							22,090,733
増・減 (▲)	3,429,859							▲ 458,874

※予算額を越える執行は年度途中に予算振替の措置を取っている

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

※基金事業の奨励金額は「教」雑費」として支出している

(2) 2016 年度収入

科目：その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	339,400
公開講座等受講料	0	0
文献複写・資料代	10,000	73,920
撮影・掲載料	200,000	1,114,700
スライド販売料	0	0
出品謝礼	0	0
特別展入場料	450,000	0
特別講演会資料代	0	0
ミュージアムグッズ売上	10,000	434,540
その他	10,000	299,970
合計	1,280,000	2,262,530
前年度予算・決算額	1,280,000	1,548,935
増・減 (△)	0	713,595

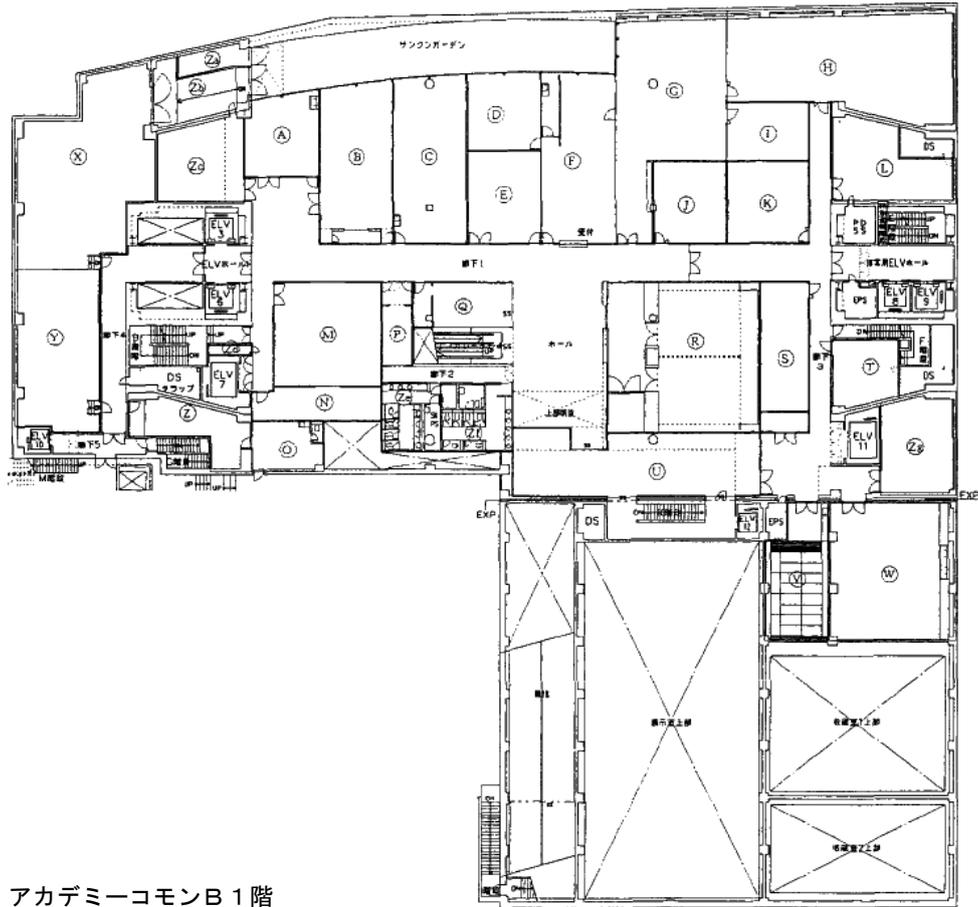
4 施設概要・見取り図

(1) 施設概要

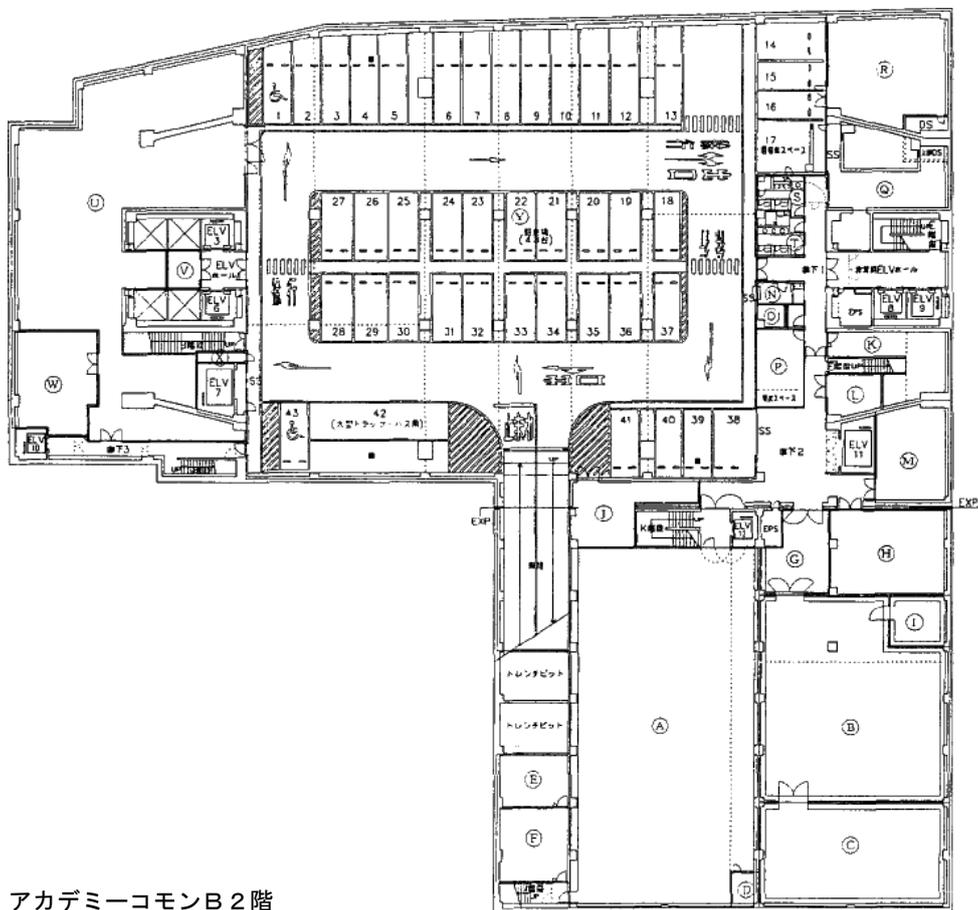
(単位 m²)

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86 m ²	243.90 m ²
	事務室	B1	F	94.06 m ²	
	会議室	B1	J	45.12 m ²	
	倉庫	B1	L	61.86 m ²	
教育普及部門	図書室	B1	G	145.04 m ²	523.22 m ²
	書庫	B1	H	176.03 m ²	
	閲覧室	B1	I	35.95 m ²	
	博物館教室	B1	B	87.94 m ²	
	体験学習室	B1	A	44.31 m ²	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95 m ²	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19 m ²	785.73 m ²
	大学史展示室	B1	U	115.20 m ²	
	特別展示室	B1	R	173.34 m ²	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03 m ²	332.76 m ²
	作業室1	B1	V	60.80 m ²	
	作業室2	B1	W	129.70 m ²	
	展示準備室	B1	K	50.23 m ²	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90 m ²	649.11 m ²
	一時保管室	B2	H	77.35 m ²	
	収蔵室1	B2	B	271.46 m ²	
	収蔵室2	B2	C	147.37 m ²	
	特別収蔵室	B2	I	23.28 m ²	
	写真保管室1	B1	S	56.68 m ²	
	写真保管室2	B1	T	34.07 m ²	
合 計					2,534.72 m ²

(2) 施設見取り図



アカデミーコモンB 1階



アカデミーコモンB 2階

5 規程

明治大学博物館規程

1991年10月31日制定
1991年規程第2号

(趣旨)

第1条 この規程は、明治大学学則第64条第2項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友及び一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 本大学における教育・研究の成果を発信する展示会、講演会、シンポジウム等の開催
- (7) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (8) 生涯教育の振興及び学習支援
- (9) 分館の設置及び運営
- (10) その他必要と認められる事業

(館長)

第4条 博物館に、館長1名を置く。

- 2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。
- 3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により理事会が任命する。
- 4 館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 館長は、再任されることができる。
- 6 館長は、学部、大学院、付属学校又は付属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

第5条 博物館に、副館長1名を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、理事会が任命する。
- 4 副館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

- 5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

第6条 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

- 2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職1名並びに学芸員及び職員若干名を置く。
- 3 学芸員は、第3条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。
(研究調査員)

第6条の2 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

- 2 研究調査員は、本大学の教職員及び学外の有識者から、館長が次条に規定する博物館運営委員会の同意を得て委嘱する。
- 3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。
(博物館運営委員会)

第7条 博物館の運営に関して、次に掲げる事項について審議するため、博物館に博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 第3条に掲げる事業及びその事業計画に関する事項
 - (2) 博物館の管理・運営に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) その他委員会が必要と認めた事項
- 2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 館長
 - (2) 副館長
 - (3) 博物館の運営に関して専門知識を有する専任教職員の中から館長が推薦する者若干名
 - (4) 第6条第2項に規定する学芸員
 - (5) 学術・社会連携部長
 - 3 前項第3号の委員は、学長が委嘱する。
 - 4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 5 委員は、再任されることができる。
 - 6 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。
 - 7 委員長は、第2項第1号の委員をもって充て、副委員長は、委員の中から委員会の同意を得て、委員長が指名する。
 - 8 委員長は、会務を総理し、委員会の議長となる。
 - 9 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。
(会議)

第7条の2 委員会は、必要に応じ、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
- 5 委員会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。
- 6 分科会に関し必要な事項は、委員長が委員会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

第8条 この規程を改廃するときは、委員会の議を経なければならない。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、委員会の議を経た後、学長の承認を得て、別に定める。

附 則 (1991年規程第2号)

(施行期日)

1 この規程は、1991年(平成3年)10月31日から施行する。

(明治大学刑事博物館規程等の廃止)

2 次に掲げる規程は、廃止する。

- (1) 明治大学刑事博物館規程(昭和56年規程第72号)
- (2) 明治大学商品陳列館規程(昭和56年規程第73号)
- (3) 明治大学考古学博物館規程(昭和56年規程第74号)

(通達第669号)

附 則 (1996年度規程第16号)

この規程は、1997年(平成9年)4月1日から施行する。

(通達第893号)(注 博物館協議会の設置に伴う改正)

附 則 (2001年度規程第14号)

この規程は、2002年(平成14年)4月1日から施行する。

(通達第1143号)(注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正)

附 則 (2003年度規程第8号)

(施行期日)

1 この規程は、2004年(平成16年)4月1日から施行する。
(改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例)

2 改正前の明治大学博物館規程第6条第1項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第8条第1項の規定にかかわらず、2004年(平成16年)3月31日をもって満了するものとする。

(通達第1232号)(注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正)

附 則 (2006年度規程第13号)

この規程は、2006年(平成18年)11月16日から施行する。

(通達第1490号)(注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正)

附 則 (2007年度規程第21号)

この規程は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。

(通達第1562号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2008年度規程第4号)

この規程は、2008年(平成20年)5月20日から施行する。

(通達第1689号)(注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正)

附 則 (2009年度規程第7号)

この規程は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、

改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1807号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2017年度規程第3号)

(施行期日)

1 この規程は、2017年(平成29年)4月20日から施行する。

(委員の任期の特例)

2 この規程の施行後、改正後の第7条第2項第3号の規定により最初に委嘱される委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、2019年(平成31年)3月31日までとする。

(通達第2462号)(注 博物館の事業の追加、博物館協議会の博物館運営委員会への改組等に伴う改正)

博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994年9月26日制定

1994年度例規第7号

(趣旨)

第1条 この要綱は、明治大学博物館規程(1991年規程第2号)第9条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品(以下「資料等」という。)の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) 撮影 資料等の写真又は動画の撮影を行うことをいう。

(2) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

(申請)

第3条 資料等の撮影及び掲載(以下「撮影・掲載」という。)を希望する者(以下「申請者」という。)は、所定の資料撮影・掲載申請書(以下「申請書」という。)を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長(以下「館長」という。)に提出し、許可を受けなければならない。

(許可)

第4条 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

(1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。

(2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。

(3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。

(4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。

(5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

3 博物館が所有する資料等の写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ若しくはそれらの複製物又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することがで

きると明らかに認められる場合は、掲載のみを許可する。

(撮影・掲載を許可しない場合)

第5条 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合
- (5) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

(料金)

第6条 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。

- 2 料金は、資料等1点当たりの金額とする。
- 3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。
(料金の免除)

第7条 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業(次号において「教育等事業」という。)の用途に供することを目的とするとき。
 - (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。
 - (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。
 - (4) 博物館法(昭和26年法律第285号)に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。
 - (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。
 - (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。
 - (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。
- 2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

(準用規定)

第8条 資料等の熟覧並びに写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ又はそれらの複製物の利用による掲載及び転載(以下「貸出掲載・転載」という。)については、第3条から前条までの規定を準用する。

- 2 前項の場合において、第6条第1項中「別表第1に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第2に定める料金を、貸出掲載・転載にあつては別表第3に定める料金を」と読み替えるものとする。
(その他の諸経費)

第9条 この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸

経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

第10条 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

- 2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

第11条 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

- 2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

(許可の取消し等)

第12条 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

- 2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

第13条 この要綱に定めのない事項については、館長が博物館運営委員会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

附則(1994年度例規第7号)

この要綱は、1994年(平成6年)9月27日から施行する。

附則(1997年度例規第7号)

この要綱は、1997年(平成9年)12月16日から施行し、改正後の第1条及び第13条の規定は、同年4月1日から適用する。

(通達第922号)(注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正)

附則(2004年度例規第7号)

この要綱は、2004年(平成16年)10月1日から施行する。(通達第1312号)(注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正)

附則(2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附則(2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附則(2015年度例規第13号)

この要綱は、2016年(平成28年)4月1日から施行する。(通達第2363号)(注 デジタル化に即した規定に改めること及び撮影・掲載料金等の改定に伴う改正)

附則

この要綱は、2017年(平成29年)4月26日から施行する。

別表第1 (第6条関係)

撮影・掲載料金 (消費税は含まない。)

写真・動画	10,000
-------	--------

(単位: 円)

別表第2 (第8条関係)

熟覧料金 (消費税は含まない。)

熟覧	5,000
----	-------

(単位: 円)

別表第3 (第8条関係)

貸出掲載・転載料金 (消費税は含まない。)

1 写真フィルム原版

サイズ	4×5 (インチ)	6×8(cm) 6×6(cm)	35 mm
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

(単位: 円)

2 デジタル写真

カラー・ モノクローム	4,000
----------------	-------

(単位: 円)

3 動画及びデジタルコンテンツ

動画及びデジタル コンテンツ	20,000
-------------------	--------

(単位: 円)

明治大学博物館特別展示室の
利用に関する取扱要綱

2005年10月4日制定

2005年度例規第7号

(趣旨)

第1条 この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程(昭和46年規程第38号)第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館(以下「博物館」という。)内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ(以下「特別展示室」という。)の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

第2条 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

(利用範囲)

第3条 特別展示室は、博物館が実施する特別展等(以下「特別展等」という。)に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動

(5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動

(6) その他特に管理責任者が許可した展示活動
(利用日及び利用時間)

第4条 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。

3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。
(利用申込み)

第5条 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

第6条 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
- (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
- (3) その他利用が不適当と認められる場合

2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

第7条 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不適当と管理責任者が認めたとき。

2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

第9条 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

第10条 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。

3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特

別展示室Ⅱともに同額)とする。

4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。

5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。

(権利の譲渡及び転貸の禁止)

第11条 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

第12条 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。

3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じて、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

第13条 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(要綱の改廃)

第14条 この要綱を改廃するときは、博物館運営委員会の議を経なければならない。

附 則 (2005年度例規第8号)

この要綱は、2005年(平成17年)10月5日から施行する。(通達第1397号)

附 則 (2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附 則

この要綱は、2017年(平成29年)4月26日から施行する。

明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

1995年5月8日制定

1995年度規程第2号

(設定)

第1条 明治大学(以下「本大学」という。)に、本大学文学部史学地理学科(考古学専攻)の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金5,000万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振興基金(以下「基金」という。)を設定する。

(目的)

第2条 基金は、考古学及び明治大学博物館(以下「博物館」という。)にかかわる調査・研究(以下単に「調査・研究」という。)を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。

(資産)

第3条 基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。

(1) 第1条の指定寄付金

(2) 基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金

(3) 第7条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産

(基金の運用等)

第4条 基金の資産は、資金の運用に関する規則(2009年度規則第20号)に基づいて運用する。

2 前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。

3 基金は、第6条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることができるものとする。

(事業)

第5条 基金による事業は、次のとおりとする。

(1) 調査・研究に対する助成

(2) 調査・研究によって得られた成果に対する顕彰

(3) 前2号のほか、第2条の目的達成に必要な事業

2 前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。

(基金運営委員会)

第6条 基金の運用等及び前条第1項の事業に関する事項を審議するため、基金運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 明治大学博物館長 1名

(2) 文学部史学地理学科考古学専攻主任(次号において「主任」という。)1名

(3) 文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうちから主任が推薦する者 若干名

(4) 学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長 2名

(5) 考古学に関し高度の学識経験を有する者 若干名

3 前項第3号及び第5号の委員は、委員長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 第2項第3号及び第5号の委員は、再任されることができる。

6 運営委員会に、委員長を置き、第2項第1号の委員をもって充てる。

7 委員長に事故あるときは、第2項第2号の委員が、その職務を代行する。

8 委員長は、会務を総理する。

9 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

10 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を

開き、議決することができない。

- 11 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長が決するところによる。
- 12 運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。
- (収支残額の処理)

第7条 毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。

(事務)

第8条 基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

(雑則)

第10条 この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。

附 則 (1995年度規程第2号)

(施行期日)

1 この規程は、1995年(平成7年)5月9日から施行する。

(委員の任期の特例)

2 この規程の施行後、最初に任命される第6条第2項第3号及び第5号の委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、1997年(平成9年)3月31日までとする。

(通達第806号)

附 則 (2003年度規程第35号)

この規程は、2004年(平成16年)4月1日から施行する。

(通達第1282号)(注 考古学博物館が明治大学博物館として統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更に伴う改正)

附 則 (2007年度規程第40号)

この規程は、2007年(平成19年)11月8日から施行する。

(通達第1604号)(注 事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正)

附 則 (2009年度規程第7号)

この規程は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1807号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2010年度規程第6号)

この規程は、2010年(平成22年)5月26日から施行し、改正後の規定は、同年3月30日から適用する。

(通達第1911号)(注 資金の運用に関する規則の制定に伴う改正)

明治大学博物館友の会会則

1988年6月25日制定

1993年4月1日改訂

2006年4月1日改訂

2010年4月1日改訂

(名称)

第1条 本会は、明治大学博物館友の会という。

(事務所)

第2条 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台1-1明治大学博物館(以下「博物館」という。)内に置く。

(目的)

第3条 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 講演会・研修会・見学会などの開催
2. 会報、ニュース、図書の発行
3. 会員による自主研究分科会活動
4. 博物館事業への協力活動
5. その他目的達成に必要と認められた事業

(入会)

第5条 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

(会員の特典)

第6条 会員には、次の特典がある。

1. 本会および博物館の行事などの情報提供
2. 明治大学並びに博物館主催行事への優待参加
3. 明治大学図書館の閲覧
4. 関係図書・資料等の割引購入

(退会)

第7条 会員の資格は、次の場合に消滅する。

1. 退会の申し出があった場合
2. 死亡した場合
3. 会費の有効期限が過ぎた場合
4. 本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合

(役員)

第8条 本会に、次の役員を置く。

会長	1名
副会長	2名
理事	5名以内
運営委員	若干名
監事	2名以内

(役員を選出)

第9条 役員は、次のとおり選出するものとする。

1. 会長および監事は、総会で選出する。
2. 副会長および理事は、会長が任命する。
3. 総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は、理事

会において選任し、会長が任命する。

4. 上記 2. 3 について、会報で報告する。
5. 監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

(役員職務)

第 10 条 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

1. 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ない時は、その職務を代行する。
3. 理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。
4. 運営委員は、理事と共に会務を行う。
5. 監事は、会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べることが出来る。

(役員任期)

第 11 条 役員任期は、2 年とする。

1. 役員再任を、妨げない。
2. 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

(相談役・顧問)

第 12 条 本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。

1. 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
2. 相談役および顧問は、会長の諮問に応じる。

(総会)

第 13 条 本会は、年 1 回総会を開き、当該年度の事業報告・会計報告並びに次年度の事業計画・予算案の承認を出席会員の過半数により議決する。

なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、臨時総会を開催しなければならない。

(理事会)

第 14 条 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、必要に応じて会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

1. 総会に付議する重要な事項。
2. その他、本会の運営に関する重要な事項。

なお、理事の過半数の要求があった場合、理事会を開催しなければならない。

(運営委員会)

第 15 条 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、必要に応じて会長が招集し、本会の業務運営を行う。

また、必要に応じて分科会代表者などを含めた拡大運営委員会を開催する。

なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、運営委員会を開催しなければならない。

(会費)

第 16 条 本会の会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 一般会員 | 3,000 円 |
| 2. 家族会員 | 1,500 円 (同居の家族) |
| 3. 学生 (明治大学学生) | 1,500 円 |
| 4. 賛助会員 (1 口) | 10,000 円 |

(会計)

第 17 条 本会の会計は、次のとおりとする。

本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもつて充てる。

(事業年度)

第 18 条 本会の事業年度は、毎年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。

(会則の変更)

第 19 条 本会の会則は、総会の議決なくして変更することは出来ない。

(付則)

1. 本会則は、改訂年 4 月 1 日から発効する。
2. 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

6 2016年度教育・研究に関する計画書

教育・研究に関する長期・中期計画書 博物館

1 理念・目的

グローバル化や情報化の進展にともなう多様な社会情勢に対応できる高度な適応力をもった人材の育成や、学びを基軸とした新たなコミュニティの形成など、大学に対する社会の要請が近年ますます高まるなかで、教育・研究の成果を広く還元し、社会の発展に寄与することは、大学の使命の重要な一面である。博物館は、大学全体の社会的発信力を高め、本学の発展に貢献するための重要なインフラとして本学の特色ある教育・研究の一翼を担う。そして、博物館独自の展示や生涯学習の多様な機会の提供などをおして社会に貢献する拠点的な役割を果たす。

博物館は、本来博物館がもつ共通の機能である史資料の収集・保管、調査・研究、教育・普及の観点、そして上記した大学博物館としての位置づけにもとづき以下の3つのミッションを掲げており、これらを長期・中期計画策定の方針としている。

ミッション1：収蔵資料の保管、拡充および利活用の促進

国内有数規模の各種収蔵資料を質・量ともに充実させ、調査・研究を進めるとともに、保存・管理及び学術情報公開の態勢を整備し、国際的な視野から教育・研究機会における利活用を促進する。

ミッション2：学内共同利用機関としての機能拡充

本学の戦略的な教育・研究推進計画に寄与するとともに、全学的なネットワークのもとで博物館として特色ある展示および教育・研究事業を実現する。

ミッション3：社会連携の推進と情報発信

本学の教育・研究の成果を社会に還元するため、生涯学習の多様な機会の提供、および地域の関係機関との交流を推進する。また、情報通信技術の活用によって、本学の教育・研究成果をより広範な人々に対して発信する役割の一翼を担う。

2 教育研究組織

(1) 共同研究・成果発信の体制

刑事、商品、考古の3部門からなる博物館の専門分野に関連する研究・知財戦略機構付属研究施設、研究クラスター、特定課題研究ユニットなどの活動との連携、また、学部・大学院との連携などにより、教員や研究グループとの共同研究・成果発信の体制を継続的に構築し強化する。また、博物館分館であった黒耀石研究センターの研究事業に対しては、同センター員の委嘱にもとづく共同研究への参画をふまえ、引き続き支援の態勢を取り、運営上の提携と事業の共同実施などを推進する。

3 教職員・教職員組織

(1) 博物館協議会の発展的な改組

博物館における合議体である「博物館協議会」は、旧3館時代における各館の運営委員会を統合・再編したものであり、学内共同利用機関としての機能拡充の観点からは、必ずしも十分な態勢とはいえない。そこで、現行の博物館協議会を各学部から選出された委員によって構成される博物館運営委員会へと改組する。運営委員会は、博物館活動の専門的な領域に対応しうる組織と位置づけられ、全学的な意思反映のネットワークの基点として機能し、館の運営方針及びその執行に責任を負う。

(2) 学芸員の位置づけ

本学の博物館が他大学に対して優位性を保持しているとすれば、それは、教員の兼担ではなく専任の学芸員が配置されていることにより、恒常的に館務を遂行することが可能である点と、高度に専門的な職務を遂行する要員として機能している点である。博物館のコア・コンピタンスを維持し保証していくためには、学芸員を専門職として制度的に位置付ける必要がある。

(3) 学内外の教員・研究者による収蔵資料の利用促進

収蔵資料を研究対象とし、長期的な研究活動を希望する学内外の教員・研究者が、資料を継続的に利用できる組織的・施設的な体制を整備する。

4 教育内容・方法・成果

(1) 博物館主催特別展の開催

博物館や提携する学内研究機関の調査・研究の成果を社会発信するために企画する特別展は、博物館の中核事業として毎年の重点項目の最上位に位置づけられ、担当学芸員は年間エフォートの大半を傾注しており、年間7万人を前後する来館者数の確保に大きく貢献している。会期に並行して、特別展のテーマに応じた公開講座など関連事業を展開する。

(2) 展覧会の共同開催

学内外の機関等からの利用要請にもとづき様々な展覧会を受け入れ、開催準備に対する助言・協力等をおこなっている。特別展示室の利用を一層周知し、学内団体による利用を活性化させ、共同利用機能の拡充を目指す。

(3) 教育普及事業

ア 在学生対象事業

建学の精神の具現化や国際的評価の視点を積極的に盛り込み、展示見学を通して広い教養に裏打ちされた心豊かな人材育成に資する教育プログラムを策定する。学芸員資格課程における館務実習生の受け入れ、学部間共通総合講座や学部・大学院との連携による公開特別講義、その他収蔵資料を活用した特色ある講義を継続するとともに、ボランティアやサークル活動等を通じた博物館事業への参加機会を構想する。

イ 生涯学習事業

一般社会人を主な対象とし、学芸員の専門的知識・技能を活用した生涯学習プログラム・研究発表会等を実施する。また、外部機関による講演会等へも積極的に出講する。

5 博物館のデジタル発信および国際化

(1) ICT ミュージアムの構築

博物館の収蔵資料は国内でも有数の学術資源であり、その活用は国際的な広がりが見込まれる。これら多様な資料の全体像と詳細な学術情報を国内外に発信するため、バーチャル常設展示室、収蔵資料データベース、インタラクティブな資料閲覧コンテンツ、特別展など展示会の動画コンテンツほかを制作・蓄積し、多言語対応したコンテンツとして提供するウェブサイト構築を推進する。

(2) 国際学術交流の推進

国際学術交流の近年の実績としては、旧石器時代研究に関わる韓国の石埜里博物館での重要文化財の展示会、明治期の古墳研究資料として著名なガウランド寄託資料に関わる大英博物館での調査などを挙げることができる。このような国際交流の機会を増やし、実質的な学術交流を推進する。

(3) 国外からの研究者受入体制の整備

資料情報の発信とともに、国外の研究者による収蔵資料の利用受入体制を整備することも必要である。海外研究者の受入を視野にレファレンス体制を整備する。

6 教育研究等環境

(1) 研究環境

ア 博物館事業に関連する調査・研究

特別展の準備をはじめ博物館におけるあらゆる専門的業務の遂行にあたっては、その学術的裏付けを得るための調査・研究機会の確保が重要である。これらの調査・研究の実施にあたっては、科研費をはじめとする外部資金を積極的に獲得し、活用する。

イ 博物館資料に関連する研究の推進

譜代大名内藤家文書、伝統的工芸品産業、時田ことわざコレクション、茨城県内古墳出土資料、前場幸治瓦コレクションに関する調査・研究を計画し、必要に応じて専任教員及び学外の有識者に研究調査員を委嘱し、共同研究を行う。2016 年度～2018 年度には、山陰地方民藝陶器のマーケティング研究を重点項目として推進する。

ウ 大学院生・学生への学習機会の提供

博物館の共同利用機能の拡充にあたっては、院生・学部生への学習機会の提供も主眼となる。上記した各種の調査研究・資料整理作業は、教員と学芸員の主導のもとに、院生・学生の協力を得ながら推進する。

(2) 施設・設備等

ア 収蔵スペースの増床

アカデミーコモン地下1・2階にある収蔵室の収容能力はすでに限界に達している。今後の体系的な資料収集と整備に資するべく、500 m³程度の収蔵施設の増設が必要であり、要望していきたい。また、今後の受入資料の専門領域拡大によっては、対処する専門学芸員の増員についても検討する。

(3) 博物館資料及び図書・電子媒体等

ア 博物館資料の構築

刑事・考古・商品の3部門の専門領域について、特色あ

る博物館資料の充実を計画的に実行する。刑事部門では刑罰史関連資料、古文書、絵図・古地図類、考古部門では黒曜石研究、東アジア青銅器、化石人類の関連資料、商品部門では伝統的工芸品産業の関連資料を収集の基本方針とする。また、学内外からの資料寄贈の申し出に対応する。

イ 博物館資料の保存処置・レファレンス体制

教育・研究への博物館資料の利用促進にあたり、レファレンス体制の整備は大きな課題である。各種資料には必要な保管処置と修復を行う。収蔵品目録として未公開の資料については、上記した ICT ミュージアムでの公開を含め、順次検索の態勢を整備する。

ウ 個性的な蔵書構築

博物館3部門に関連する専門図書について継続的に充実をはかる。特に、全国各地の発掘調査機関から寄贈される遺跡発掘調査報告書、全国各地の博物館・美術館が刊行した展示会図録、収蔵資料関連の参考文献の収蔵は、博物館図書に特色を与えている。約8万冊の蔵書は、すでに図書館の OPAC に書誌登録されているが、閲覧環境の整備や蔵書点検を図書館と共同して継続的に行う。

7 社会連携・社会貢献

文科省の補助事業や大学基準協会による大学評価においても注目される社会連携事業について、社会連携機構、リバティアカデミー、図書館と連携して充実化を図る。

(1) 教育研究成果の社会還元及び情報発信の強化

ア 年間約7万名という来館者は、大学博物館トップクラスである。特別展示室を全学的なネットワークのもとで活用し、本学における教育研究成果を広くアピールする。

イ 研究資源としてばかりではなく、大学教育への興味関心の喚起という観点からは、教養・娯楽を含めて社会における幅広い収蔵資料利用を促進する。

ウ 新聞・テレビなど報道機関に対し、タイムリーな情報提供をおこないパブリシティ効果を高める。全学的な教育研究成果の社会発信一翼を担う仕組みを博物館として策定する。

(2) 地域連携・大学間連携事業の推進

ア 本学との間で研究推進・社会連携協定を締結している長野県小県郡長和町をはじめ、博物館の活動と関連する自治体や教育機関、学会等と連携した事業を展開する。

イ 考古学・文化人類学の分野で高い評価を得ている南山大学人類学博物館との交流事業を実施する（交流協定に基づく第3期事業：2016 年度～2018 年度）。

ウ これまでに地域連携の実績がある宮崎県延岡市、福島県いわき市、東京都千代田区などとの間で地域連携を推進する。

エ 学外の教育・研究機関が主催する市民講座等へも積極的に出講し、本学と博物館の研究成果を社会に還元し、地域連携の推進に努める。

(3) 博物館友の会活動への支援

博物館友の会は、会員による自立的な運営体制をとっており、博物館は、友の会会員のボランティアによる展覧会

や図書室の運営、資料整理等について多大な支援を受けている。友の会は、博物館の対外的な評価の形成に大きく貢献しているため、大学と一般社会との接点として機能している友の会活動を支援することは、博物館にとって重要な意味をもっており、今後も推進する。

8 管理運営・財務

(1) 事務組織

博物館運営の基幹人材である学芸員については、関係学問分野における専門的知識と技能を要する専門職として制度的に位置付けられるよう要請してゆく。現在、博物館事務室に一般事務職員の配置がないことにより学芸員による専門的職務遂行が制約されている実情がある。博物館の発展に向けた適切な事務組織を構築するために専任事務職員の配置を関係部署に要求する。

(2) 適切な財産管理手段の構築

収蔵資料の収集プロセスは第2次大戦前に遡り、その間には度重なる組織改編や所在地移転があり、資産登録に関する勘定科目についても一定ではなかったため管理上の混乱が見られる。引き続き収蔵資料の所在確認を進め、資産登録手順や棚卸し等の管理手段について関係各部署と協議の上、適切な財産管理体制を構築する。

9 内部質保証

(1) 自己点検・評価

博物館自己点検・評価委員会による点検・評価作業を中心に、教員・事務管理職によって構成される博物館協議会における意見聴取をはじめ、教職員や学外の有識者等に対し幅広く評価を求める。また、各種アンケート調査や博物館友の会との対話を通して、積極的に利用者の意見を聴取し、博物館運営と事業の改善に資する。

(2) 情報公開

ア 博物館資料等に関する学術情報の公開

『博物館研究報告』は、投稿規程と査読制度を整備し年次刊行している。また、各種資料整理の成果をICTミュージアムのコンテンツ、図録、目録、報告書等として公開あるいは刊行する。

イ 事業報告と広報活動

事業内容、研究実績、収蔵資料利用数・入館者動向等の各種統計、予算・決算、各種委員会、規程類、施設概要等については、『博物館年報』の年次刊行により公開している。広報誌「ミュージアム・アイズ」(年2回発行)やミュージアムショップ並びに他の博物館・学会等とのネットワークを活用し、事業内容と活動の広報に努める。またホームページの更新とタイムリーな情報提供に努める。

7 2016年度単年度計画重点項目一覧

順位	計画課題(名称)	計画の成果・効果	備考
1	博物館主催特別展「気候変動に人類はどう適応したか(仮)」の開催	毎年度開催している本学および博物館コレクションの研究成果を社会還元する特別展は、博物館の社会連携事業の重点項目と位置づけられる。当該特別展は、博物館分館であった黒曜石研究センターによる私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究成果を中心に、先史時代の大きな気候変動に直面した人類史のエピソードを紹介する。約2ヶ月間の会期中、約5,000人程度の入場者を目標とする。また関連事業である展覧会ガイドツアーや公開講座(5講義)では延べ約500人の参加者を目標とする。	2015年度は、常設展示室の部分改修に特別展開催経費を充当した。
2	明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業	2012交流事業(2010年度より実施。1期3ヶ年とする)の第3期事業(2016~2018年度)として。1年目は博物館収蔵資料を活用した在学生教育・生涯教育の特色的なプログラムを開発する。展示物を活用したVTS(Visual Thinking Strategy)理論に基いて構築する観賞教育のプログラムはアクティブラーニングの実現となる。開発過程をワークショップとして公開し、学芸員養成課程と連携するとともに博物館教育論の専門家を招致して検証を受ける。また、本学の研究成果・研究資源を名古屋方面へアピールする機会ともなる。	

3	山陰地方民藝陶器のマーケティング研究	商学部教員等に研究調査員を委嘱して組織している商品部門研究推進部会の活性化を図る。地域振興策という観点を含めた伝統的工芸品のマーケティング研究の対象として、近年、再び社会的な関心が高まりつつある「民藝運動」に関わる鳥取県・島根県の陶磁器産業を2016年度からの3ヶ年研究対象とし、大学創立者出身地自治体との連携事業にも位置付ける。商品開発・販売・産業振興の関係者を交えて検証した成果を公開特別講義（商学部生・他学部生・一般への公開）及び『博物館研究報告』で公開する。	
4	ICTミュージアムの構築	インターネットを利用した国内外への本学の教育・研究資源の公開事業の一環として位置づけられる。膨大な博物館コレクションは、これまで展示、図録等の媒体でその内容が公開されているが、全体のごく一部である。ICTミュージアムでは、常設展バーチャルツアー、データベース、教育コンテンツ等のデジタル媒体を駆使して、多様なコレクションの全体像と詳細な学術情報を国内外に発信する。2015年度からの3カ年で2,000件程度のデータベース、100件程度の教育コンテンツの発信を計画目標とする。	

8 明治大学博物館のあゆみ

年代	記事
1881 (明治 14) 年	1 月 明治法律学校開校 × ×
1929 (昭和 4) 年	4 月 刑事博物館を記念館 5 階に開設
1931 (昭和 6) 年	大学創立 50 周年記念刑事展覧会開催
1933 (昭和 8) 年	刑事博物館初代館長に大谷美隆法学部教授が就任
	9 月 『刑事博物館図録』 (第 2 次世界大戦)
1949 (昭和 24) 年	新制大学へ移行
1951 (昭和 26) 年	4 月 刑事博物館の運営を再開 館長に島田正郎法学部教授 (後、明治大学総長) 林久吉商学部教授 (初代商品陳列館長) らの商品研究所が資料室を開設
1952 (昭和 27) 年	考古学陳列館が 2 号館 4 階に開館 初代館長後藤守一文学部教授
1954 (昭和 29) 年	4 月 刑事博物館が 2 号館 4 階へ移転 6 月に一般公開開始
1955 (昭和 30) 年	2 月 刑事博物館が博物館相当施設に指定される (2004 年 3 月廃館にともない指定解除)
1957 (昭和 32) 年	5 月 商品陳列館が 2 号館 4 階に開館 (この頃には 3 館とも一般公開 3 館共通の入館案内を作成)
1960 (昭和 35) 年	考古学陳列館長に杉原荘介文学部教授が就任
1963 (昭和 38) 年	譜代大名内藤家文書を和泉校舎図書館に収蔵、後、刑事博物館に移管
1966 (昭和 41) 年	4 月 小川町校舎へ移転 (考古 2 階・刑事 3 階・商品 4 階) 商品陳列館長に三谷茂商学部教授が就任
	(大 学 紛 争)
1976 (昭和 51) 年	4 月 刑事博物館長に鍋田一法学部教授就任
1977 (昭和 52) 年	4 月 商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催 (年 1 回～2003)
1981 (昭和 56) 年	1 号館 (刑事 1 階・考古 3 階)、11 号館 (商品 4 階) へ仮移転 商品陳列館長に刀根武晴商学部教授が就任
1983 (昭和 58) 年	9 月 考古学陳列館長大塚初重文学部教授が就任
1985 (昭和 60) 年	11 月 3 館大学会館へ移転 (刑事・商品 3 階・考古 4 階) 「考古学博物館」に名称変更
1987 (昭和 62) 年	5 月 公開講座「考古学ゼミナール」開講
1988 (昭和 63) 年	6 月 考古学博物館友の会結成

1991 (平成 3) 年	4 月	3 博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置
	10 月	「明治大学博物館規程」制定
1995 (平成 7) 年	4 月	考古学博物館長に戸沢充則文学部教授が就任 刑事博物館長に川端博法学部教授が就任
	10 月	博物館入門講座を開講
1997 (平成 9) 年	4 月	刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催 (～12 月)
2001 (平成 13) 年	4 月	刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
2002 (平成 14) 年		商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授が就任
2004 (平成 16) 年	4 月	「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館 博物館長に小疇尚文学部教授が就任 「明治大学博物館規程」改正施行 (刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合) 国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」開催 (～5 月)
	10 月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託 (～2005 年 3 月)
2006 (平成 18) 年	4 月	博物館長に杉原重夫文学部教授就任
	8 月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託 (～2007 年 3 月)
	10 月	特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示
	11 月	明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる (～2010 年 3 月)
2007 (平成 19) 年	10 月	事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる
2009 (平成 21) 年	4 月	事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる 巡回特別展「海のシルクロードの出発点“福建”」展開催 中国国家一級文物を展示 (～5 月)
2010 (平成 22) 年	3 月	南山大学人類学博物館と交流協定締結
2012 (平成 24) 年	4 月	博物館長に風間信隆商学部教授が就任
2013 (平成 25) 年	2 月	ギロチンとニュルンベルグの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との合同特別展「驚きの博物館コレクション展」(～3 月)
	3 月	南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生—自明性への問いとコレクションの文化資源化—』を岩田書院から刊行
	7 月	岩宿遺跡出土石器 (重文・29 点) 他記録類をはじめて海外へ出展 (～9 月) 韓国公州市石壮里博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展を開催 (～2014 年 2 月)
2014 (平成 26) 年	5 月	開館 10 年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」を開催 (～6 月)
	7 月	大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを紹介した「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催 (～8 月)
2016 (平成 28) 年	3 月	常設展示を改修、新装オープン 東京都教育庁から博物館相当施設に指定される
	4 月	博物館長に村上一博法学部教授が就任
2017 年 (平成 29) 年	4 月	明治大学博物館規程の一部改正が承認され、博物館協議会を博物館運営委員会に改組

明治大学博物館年報 2016年度

2017年8月4日 発行

編集・
発行人 明治大学学術・社会連携部博物館事務室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

電 話 03-3296-4448

F A X 03-3296-4365

U R L <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

印 刷 勝美印刷株式会社

東京都文京区白山 1-13-7 アクア白山ビル 5F

